

明治三十三年三月  
日  
天正三年八月  
日

南支鐵道關係雜纂

第三

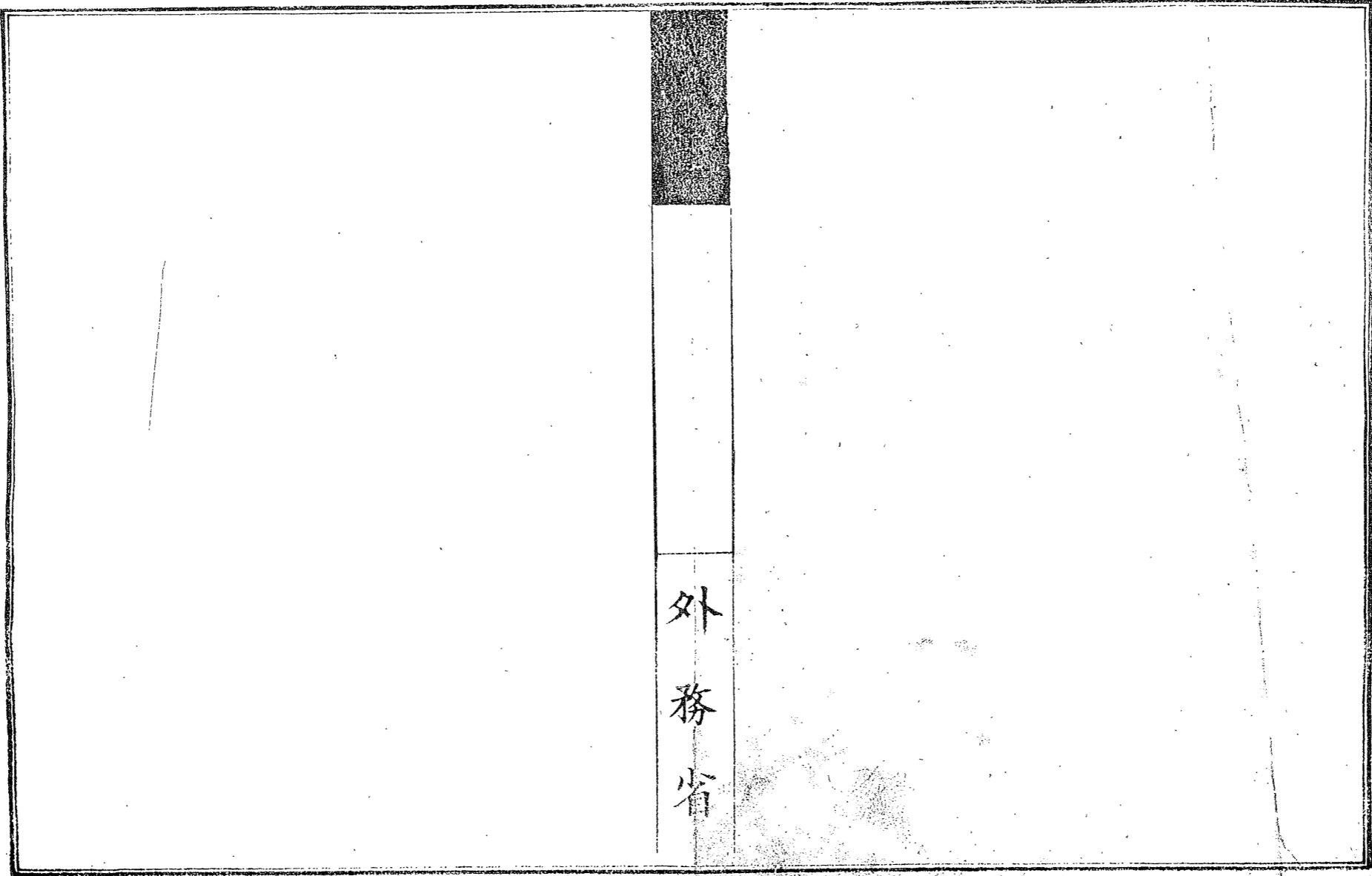
明治三十三年三月  
日  
天正三年八月  
日

南支鐵道關係雜纂

歐  
子  
七

1  
7  
3  
17

1-1637



外  
務  
省

1-1637

福建省之於帝國對支要求雜件

目次

(鑄道之部) (南支鑄道) (三)

治明	年月日	名	發宛番號	大意
	四三三	一在福州領事機	三	福建鐵路公司陳經理轉任訖並事 經過廈門附近線、後成及一般狀況、 付日人ト、談話
			四〇	同上經理ト、京願未
		三〇在廈門領事機	五	漳州廈門線經營狀況並邦人技師備 聘ト、付索申 (同上停車場寫真)
			九六	深湖鐵路公司ノ設立
		六一在廣東領事公		
			九	漳州廈門間鑄道敷設經過
		八二一在清公使	一〇三	同上
		九一在廈門領事機	一〇	福建鑄道公司役員、資金及株主總 會等ノ狀況
		一九在福州領事公	一二五	漳州廈門線經營行概内情
		一二四在廈門領事機	一六	同上内情調查員郵傳部ト、派遣
		二五〇	一七	福建鐵路公司ノ諸議局宛提出意見 書
		四三三	三五	福建鐵路經營ト、昇ル、陳寶琛ノ意 見書

外務省

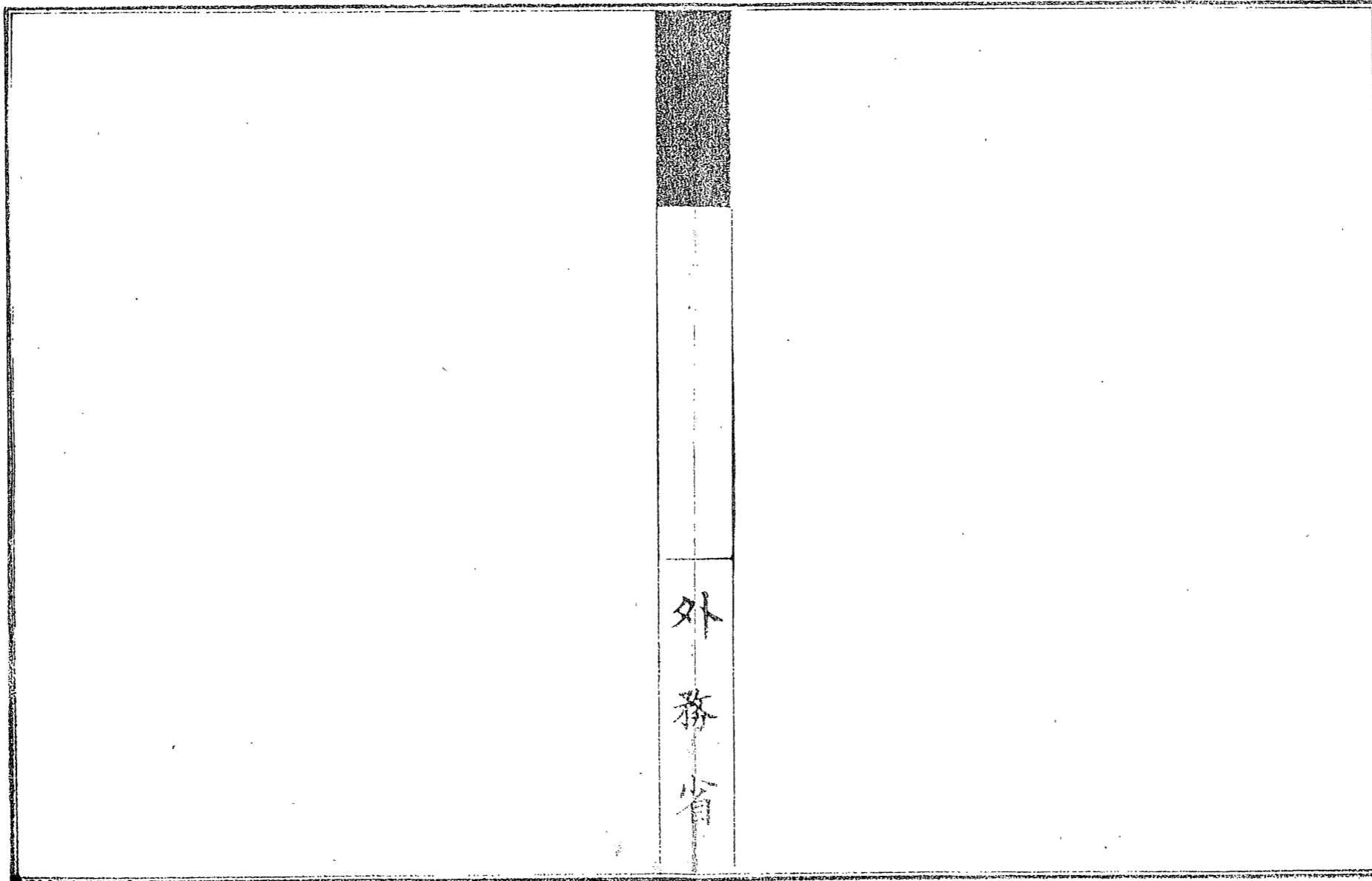
年月日	名	發宛番號	大意
			外務省
五二二	〇	〇	九一 福建鐵道經營、付陳寶琛、林三
四三二	〇	〇	四二 漳廈線延長狀況
〇〇	〇	〇	二〇五 漳州廈門線延長狀況
一三三	〇	〇	二七 同上善後協議、并、林三總會狀況
一〇三	〇	〇	二一 福建鐵道經營行概內情
六一	〇	〇	一七四 浙江鐵路公司總理、南三省聯絡鐵道敷設運動
二〇	〇	〇	八六 漳廈鐵道一部開通狀況
五一	〇	〇	二八 同上鐵道、付郵傳部、調查狀況、奉文
元	〇	〇	三 同上反對、因、福州共和民會、決議
三五	〇	〇	五 同上借款交涉經過
二二	〇	〇	七 同上說
三七	〇	〇	福建省、於、我優先權、付都督、入方訓令
四四一	〇	〇	一八四 同上收支計算報告
四五二	〇	〇	二〇 福建鐵道、窮境、五福建軍政府補助、革命軍政府、鐵道、蘇山担保、對未借款中、込說



年	月	日	名	發宛	番	號	大	意
			一〇在廈門領事	電	七	七	錢山鑛山担保對未借款交涉經過	
			一三在福州領事	電	七	七	我優先權說明對之都督而答振	
			一六回	電	四	四	福建官憲卜台灣銀行卜借款交涉	
			四回	電	八	八	錢山鑛山担保借款問題經過	
			四回	電	九	九	我優先權都督、說明始末並借款	
			六在杭州領事	電	三二	三二	浙江鐵路公司對未借款契約中抵當	
			七海軍大臣	電	無	無	同上條項我鐵道優先權、抵觸、付對	
			六在清公使	電	一七	一七	同上、付對清中入方訓令	
			一五回	電	四二二	四二二	同上四答	
			海軍大臣	電	三四五	三四五	浙江都督、福尾並邵武府水口間錢	
			一七在杭州領事	電	一	一	道敷設說其他	
			一三在福州領事	電	六七	六七	浙江鐵路公司對未借款對之措	
			一五回	電	七一	七一	置訓令	
			一六海軍大臣	電	一三八	一三八	福建馬尾間敷設計畫	
				電	浙江都督、演說說	浙江都督、演說說		

外 務 省





1-1637



多少、変動する生るや、その中、被存の  
 又、銀行の司外、一人、按、所、儀、を、行、う、に、  
 定、手、の、月、二十、三、日、付、機、密、才、一、号、を、  
 以、り、及、其、者、告、置、の、如、く、傳、次、回、録、道、  
 へ、関、係、を、消、滅、一、つ、波、か、い、の、存、在、の、如、く、  
 將、來、任、總、理、の、事、見、え、候、り、テ、い、の、如、何、  
 相、成、の、事、や、注、意、を、な、す、に、あ、ら、せ、り、存、在、  
 高、岩、の、地、籍、建、新、局、に、お、き、て、右、の、高、  
 等、學、堂、監、督、の、林、院、の、修、養、陳、培、  
 等、の、師、範、學、堂、監、督、の、前、知、府、清、  
 年、の、去、毒、總、社、長、の、林、院、の、修、養、  
 修、揚、進、給、の、推、薦、中、に、カ、来、り、決、定、せ、  
 サ、ル、者、と、す、べ、し、

在清國福州日本領事館

右及傳報告所、敬具  
 伊勢院公使、七送

付、付、書、置、の、

福建鐵路公司總理陳寶琛談話概要

外務書記生岩村成光

三月九日福建鐵路公司總理兼全國師範學  
堂、高等學堂監督、教育總會、去毒總  
社長、職有る内閣學士陳寶琛氏ヲ  
其寓居福州城内鐵路公司事務所ニ訪  
問シ、同氏ニ南清ニ於テ有名士トシテ聲  
望頗ル高キモ其態度ハ真率ニ着實トシテ  
毫モ浮華ノ辭ナク諷刺トシテ語ル所大略  
左記ノ如ク有之候  
余ハ先ツ、閣下ノ北京ニ赴カルトイフ風流ハ  
真ナリヤト問ヒシニ答テ

在清國福州日本領事館

送來種々ノ風流アリシモ事實ハアラザリカ人々  
固々本月十五日(即我三月五日)北京ヨリ召見  
ノ諭旨ニ據セリ今則余ト同時ニ命ヲ受テ  
シ、前馬龍江巡檢程德全及元某省巡  
檢ヨリシキ祖謀ノ西名ナリ  
余ハ又「然ラハ何月頃上京セヌ、ヤ當地ニ於テ  
閣下ノ職務ハ如何セラル、ヤ」問ヒシニ  
余ハ悉ク現今ノ職務ヲ解キ後任者ニ  
繼キタル上出仕セサルハカラサルモ急ニ通  
商ニ於テ後任者ヲ求ムルニ困難トシ以テ  
已ニ電報ヲ以テ左ノ事情ヲ北京ニ具  
申シ出仕ノ期豫メ願ヒ置キ多ク併シナカ  
ラ成ルニ一月位、後ニ出仕シタキ考ナリ



鐵路公司總理等、後任者、其由心者あり、  
同、  
同、

同下命令到達後三四日、  
事決定する所ナシ、  
上適當なる後任者ヲ推薦シタキモ、  
其其人、之と目ツ本公司ノ株主、泉州  
及漳州人、多キ故、或ルハ、  
適當ナル一ト考ルモ、同地、有力者ハ、  
在ルヲ以テ不便多ク、同下夫々、  
ナリ各學堂監督其他モ同様、  
夫ヨリ、  
近況及外國人技師、

在清國福州日本領事館

鉄道、土工、層門、  
墨ハ、  
多ク、  
業ニ、  
カ為、  
總理ガ、  
元、  
技師、  
備、  
作、  
從、

ノ而目シ維持スル為メ同校師厦門出張ノ際  
 日中両リ紳 フニトシテ承テ居ルニ多ク  
 後三四程厦門ニ来リ其ノ都度一二週間  
 滞在シタルカ本年ニ至リテハ厦門ニ来リシ  
 エトテ今テヤ全ク無関係ノ海ナリ同校師  
 上海博習洋行ニ関係アリテ鉄道工  
 事材料ヲ受買ハシトテ皆定テモ人オカ  
 事遂セサリシラシテ彼ノ終ニ不帰ニ終シ  
 リ人オハ今多ク校師トシテ日本人ニ給学セシ  
 法哥人ヲ採用シタキ皆定テリニ  
 ソレヨリ陳氏トシテ長男カ東京ノ成城学  
 校ニ留學中病元ニテ殆マセシカ更ニ留學  
 セシタル考ナリ今同校師給学書ニ更ニ

在清國福州日本領事館

日考人教師ヲ増聘スル度キ考ナリトナリ  
 リタルカ願ル多ク見受ケラレシ以テ會談  
 約一時間ニシテ辭去シタリ

福建鐵路

明治四十二年五月三日接受

公第 四〇 號

明治四十二年四月廿日

在福州

副領事 天野 某



商務大臣 伯耆 少村 壽 太郎 殿

福建鐵路公司 總理 陳宝琛

上京、件

今般禮學館 總管 兼 大匠 之 任 也 之 夕 凡  
福建鐵路 之 自 總理 陳宝琛 之 本月  
十六日 當 港 解 纜 之 汽 船 海 晏 号 三  
北京 之 向 之 出 發 之 日 也 之 女 婿 之 翰 林 院

在清國福州日本領事館

編修 林炳章 (林則徐之孫) 之 之 同行

陳宝琛、当地之於、以、安、掌、之、任、之、任、務、ハ  
頗、多、ク、其、後、任、者、之、就、テ、ハ、種、種、之、任、務、ヲ  
累、ネ、タ、ル、モ、任、者、之、適、任、者、ヲ、以、テ、任、務、ヲ、行、フ、ニ  
エ、ル、如、リ、鐵、路、公、司、總、理、諮、議、局、總、理、  
之、任、務、社、理、等、ハ、同、氏、之、自、京、之、後、モ  
尚、ホ、之、ヲ、管、掌、ス、ル、一、ト、シ、諮、議、局、及、之、者、也、  
社、之、副、理、ト、シ、テ、翰、林、院、編、修、陳、培、煥、  
同、楊、廷、幹、二、氏、ヲ、選、ク、少、事、ト、シ、之、ヲ、任、  
之、又、高、等、學、堂、監、督、及、農、事、等、之、任、  
務、後、任、之、陳、培、煥、氏、全、國、師、範、學、  
堂、監、督、之、前、四、川、省、夔、州、知、府、潘、大、

年氏工藝傳習所編理ニ揚廷錦氏  
 ヲ推署之年務引繼ラセタリ  
 柳之陳定深ハ本年六月二日張之洞ト  
 同村ニ遊居ニ及身ニ之ト立候敷ク曾テ  
 南洋有難大臣ノ任ト立リニ時西太后ノ  
 忌憚ニ觸レ退隱シタルモノナルカ有回再ヒ  
 任官スルニ至リタルハ必ス張之洞ノ推挙ニ  
 出ラセラルハリ中人モ頗ル得意ノ状ニテ當地  
 各官官意ニ見送ラシ出及ノ途ニ就ケリ  
 右及沙報告係部員  
 也傳ハ五法公使トモ報告致意スル

在清國福州府本領...

明治四十三年五月二十日 奉 警 政 務 局

機密第九

第一課

明治四十三年四月廿日

在厦門領事館事務代理  
領事官補 本村安三郎

外務大臣内務大臣村善太郎殿

福建鉄道ニ関シノ果報ノ件

法國福建鉄道ノ状況ニ関シテ從來屢  
次稟報シ置候其長ク状況ニ関シ今  
般別紙ニ通シ且其後諸問ニ査閱五半  
後出

機密 受第1403補

在清厦門日本帝國領事館

仰ガズ法國が獨リ完成シ期スル所ニシテ殊ニ  
技師ノ件ニ関シテモ若シ外國技師ヲ僱用  
セトスル場合ニ先テ我國ニ関シテ約束有リ  
定客年中 突キ英國技師ノシクレール  
印僱用ノ風説有リ當時六月廿日附貴  
電亦三月廿日以テ法國地方官ニ対シテ  
クレール僱用ニ我國ニ対シテ約束及非行  
ナル旨送付有テ滿蒙割 占率リ大抵事  
務任理有テ未ダ確切ナル付人ト其約成立後  
シテ之ヲ覽者六月廿日付電復亦十月廿日以テ  
同答送シ置候其長ク其後七官ニ由テ  
トコロニ依ルナクシテ僱用ニ事實ナルモ  
此一時顧問トシテ之ニ由テ且ソ早ニ三月月

一、同位来戻視察ノ節有リシ事ニ止リ積  
 極的ニ何事設計セシテ同位又清國カ  
 青物、素直ニ及シ此岸ニ出テシテ蓋シ時情  
 毛株金ノ甚多集、際シ工率、僅クトシテ  
 セザル、殊主ニ鐵道ノ前途、疑懼ノ念ヲ抱  
 キ、幕集ニ應ジテモ少ナリ、因部ノ餘、庶務  
 ノ安心ノ實ニ苦肉策トシテ同位引ハレシモ、如  
 クシカモ同位、同位帰國中、一、現ニ其、解  
 關係、存否サハ不明ニ有テ要スルニ有カサル  
 在師トシテ、該鐵路ノ引由ニ電キテおスモ、トシ  
 思料、致カレシ  
 事情、其、如キシ以テ、シクレ、ア、僱聘ニ関  
 清國官憲ニ、秋議ヲ提出シ、從今表面、上其  
 在清厦門日本帝國領事館  
 解紛ノ聲、聞カス、ア、事、實、上、從、前、決、マ  
 其、引、存、続、セ、ル、ト、モ、限、テ、該、局、同、位、ラ、シ、長  
 我國技師、僱聘ノ障害、遠シ、留、ヤ、ル、結  
 果トモ、本、事、ヤ、モ、外、被、計、從、テ、寧、ク、積、極、的、  
 鐵路、引、由、ニ、該、英、國、技、師、以、上、地、位、ヲ  
 与、ス、キ、我、國、技、師、ヲ、以、テ、實、際、シ、我、收、ル、  
 方、得、第、一、カ、ト、思、考、必、治、也、ニ、翻、テ、該、鐵、道  
 現況、ノ、願、ニ、別、紙、報、告、ニ、述、布、後、シ、是、以、  
 通、テ、由、部、ノ、執、務、者、ノ、無、理、強、施、シ、  
 内、分、外、信、用、資、金、ノ、欠、乏、甚、ク、為、リ、限、合、強  
 止、中、止、途、ニ、前、途、頗、ル、疑、フ、可、キ、モ、有、シ、  
 此、際、責任、我、技、師、ノ、不、ト、ス、モ、第、一、報、告、  
 出、處、ニ、困、難、ナ、ク、且、テ、技、師、ト、シ、テ、子、ト、ス、餘



地ヲ却ル我國教師ノ聲價ノ墜ルヲ結果  
シ見ルニ至ルノ慮ナキニシテ非分ノ待遇ヲ受テ  
我國教師ノ力ノ必要アリト云ハ英國教師同  
様兼任ノ方宜敷タルヲ差向キ潮以鐵道  
ノ教師ヲ各灣臨智村ノ教師ノ之ニ充ツコト  
可然ト存シ既ニ客年申内ニ臨智村ノ意  
向シ古館分ノ法交第一号ノ選ニ古來此下  
同村ニ於テ何時ニモ敷通可致方内被有  
之條ハ既ニ事修ニ付テ英國教師ノ旋  
轉ノ件ニ關シテ目下鐵道狀況精觀中  
有リ時機シ見テ適宜ノ措置ヲ採ル所存有  
之條向々採取所宜古來此下法交  
中條法 器具

在清履正日本帝國領事館

追テ本館寫ニ在港公使一モ送付此レ置法  
又該鐵道ニ關スル寫真五葉別便以テ  
及送付付傳

別紙

福建鉄道現況

元来福建鉄道ハ清國獨立ノ自営ニ係リ其  
 成績如何ハ列國ノ注視シツマル所ニシテ清國  
 ニ於テモ行掛上良果ヲ收メ得テ以テ他鉄道ノ  
 模範ヲラシメント腐心シツマルハ明ナレドモ如何  
 セシ当路ニ其人ヲ得ザリシ為メ内部ニ軋轢ヲ  
 生シ彼等ノ無経験ハ工事ノ進捗ヲ阻害シ  
 遂ニ信用失墜資金欠乏ノ悲境ニ陥リ工  
 事漸ク其緒ニ就クマ早ヤ殆ンド中止ノ状ト  
 ナレリ今項ヲ分ケテ其狀況ヲ述ベントス  
 一、公司當路者ノ状態

彼ノ陳寶琛ハ鉄路公司設立以來之ガ總  
 辦ノ任ニ當リ總務ヲ處辦シ大株主葉壽堂

在清厦門日本帝國領事館

(葉崇祿)及胡子春(胡國廉)ノ二名之ガ総  
 理即チ副総辦ト為リ總辦ヲ補佐シ尚ホ  
 大株主十二名ヲ舉ゲテ董事(理事)トナシ  
 タリ然ルニ陳總辦ハ考試時代ノ出身ニシテ  
 學識深遠相當ノ官歴ヲ有スト虽モ泰西ノ學  
 ニ疎ク其云フ所理論ニ走リテ實地ニ行ハシ難  
 ク鐵道總辦トシテハ何等施スマキ手腕技能ヲ  
 有セス無資力ナル彼ガ到底公司内外ニ信用ヲ  
 保ツハ甚タ困難ナリ之ヲ補佐スル葉恆理ハ學  
 識經驗ニ乏シト虽モ道台ノ官職ヲ有シ當  
 省屈指ノ豪商ニシテ多數ノ株ヲ有シ然カモ株  
 主ハ殆ンド彼ガ商業界ニ信用アリシ為メニ募  
 集セラレシモノト云フベク公司内ニ於テハ隱然

勢カヲ保有スルモノナリ胡子春モホタ当省才  
 一流ノ財産家ニシテ南洋ニ根據ヲ有シ鉄鉄  
 道完成後ハ福建省ニ於ケル礦山開掘權ヲ  
 得ントシ該鐵道ノ株式モ多数ヲ有スレドモ當  
 初以來公司内ノ事務ニハ全ク從事セズ單ニ  
 有カナル株主トシテ恠理ノ任ニ選バレシニ過ギズ只  
 ダ陳總辦ト葉恠理トハ其狀態右ノ如クナルヲ以  
 テ遂ニ權力爭奪ヲ惹起シ總辦ハ恠理ヲ禦  
 スルコトヲ得ズ恠理ハ總辦ノ命ニ從ハズ從來  
 再三開ケル株主總會ノ如キモ一度トシテ其要  
 領ヲ得ズ近來此弊益々甚ダシク葉恠理ハ  
 遂ニ其職ヲ辭セントシテ聽許セラズ今ハ全ク其  
 名義ヲ存スルノ止マリ殆ンド實務ヲ顧ミ  
 在清厦門日本帝國領事館  
 ガルコト恰カモ尙外者ノ如シ而シテ陳總辦ハ今  
 同西太后ノ登極ヲ好機トシ遂ニ執官ニ志シ  
 去本月五日最後ノ株主會議ヲ終ルマ福州ニ  
 上リ鐵道總辦ノ名義ヲ殘シテ全十五日北京ニ  
 向ケ出發セリ彼ガ實職ヲ去リ乍ラ名義ヲ留保  
 セシハ公司内重役ガ皆ナ道名義シクハ之ニ正敵  
 スル官名ヲ有スレドモ之レ單ニ買官ニ過ギズ故ニ各  
 々省内ニ於テハ屈指ノ商人ナレドモ官位ニ知人ナ  
 ク之ト連結ヲ取ルコト能ハズ然ルニ陳寶琛ハ相  
 當ノ官歴アリ殊ニ張之洞トハ年來ノ友情アリ故  
 ニ陳寶琛ノ名義ヲ殘ス時ハ官位ト連結ヲ保ツ  
 コトヲ得該鐵道ノ將來ニ向ヒ大ニ有益ナルヲ以  
 テ重役等ハ其名義ヲ保留セラレントヲ求メタ

リ又陳寶琛モ該鐵道ガ将来成切セル曉ニハ  
 自己ノ功績ト為シ若シ不成功ニ終ル時ハ其責  
 任ヲ免ルハコトヲ得ルヲ以テ之ノ要求ヲ甘諾シタ  
 ルモノナリ彼ハ当地ヲ去ルニ臨ミ一監査役黃秀  
 琅ヲシテ實務ヲ總理セシメ鐵道公司提調鄭  
 霽林(従前厦防廳主任代理タリ)ヲシテ之ヲ補  
 佐セシメ工率監督ノ為ニ福州ヨリ技師王幼石  
 ヲ招致シテ之ノ任ニ當ラシム故ニ現今公司内ノ大  
 小事ハ右三名ノ專ラ主宰スル所ナリト云フマシ  
 又該公司株主ハ主トシテ南洋各地ニ募集セラ  
 レシモノナルヲ以テ大株主中ヨリ採用セラレシ董事ハ  
 大半ハ根據ヲ南洋各地ニ有シ当地ニ居住中ノモ  
 ノハ常ニ三四名ニ過ギズ依之觀之該公司ノ董  
 事ノ多数ト株主ノ大半トハ公司ノ内容ハ殆ンド  
 之ヲ窺知スルニ由ナク只ダ該公司ガ其機關新聞  
 タル厦門日報ニ掲載セル定期ノ申譯的報告  
 ニヨリ僅カニ之ヲ知ルノミ

在清厦門日本帝國領事館

ニ資本  
 福建鐵道厦門漳州間及石美泉州間ノ二線  
 布設費豫算額ヲ六百萬元トシ之ヲ百二十萬  
 株ニ分チ主トシテ在南洋清國間ニ募集シ外  
 人ノ賣買ヲ許サズ(外國籍民ハ元未清國人タ  
 ルノ故ヲ以テ清國人ノ同様加アラ許ス)其募集  
 ノ結果應募者ノ多クハ福建省中厦門漳  
 州及泉州ニ原籍ヲ有セルモノナリ泉州ノ株或  
 ハ才一着ニ泉州同安間ノ布設ヲ要求シ漳州

株主ハ厦門漳州間ヲ第一ニ布設スマント為シ  
陳總辦モ當時其處置ヲ苦シミシガ結局最モ  
有利ナリト認ムル厦門漳州間ヲ試設シ亭子イテ  
泉州ニ及ビ以テ福建全省ノ布設ヲ完ルノ計劃  
ニシテ目下厦門漳州間ノ即ケ漳厦鐵道布設ニ  
着手中ナリ而シテ漳厦鐵道豫算額ヲ三百万  
元トシ愈々工事ニ着手シタル所前速ノ如キ状  
態ニヨリ遂ニ株主ノ不信用ヲ来シ株金拂込ミ  
ヲ三期ニ分チシガ全株金ヲ拂込ミシモノ頗ル少数ニ  
シテ或ハ才一期迄テ甚ダシキハ申込ノ際一部ヲ  
拂込ミ殘金ハ其拂込ミヲ躊躇スルモノサヘアリ又  
未募集株モ尠ナカラス結局募集シ得タル  
資本ハ今ニ至ル迄テ漸ク百八十萬元ニ止マリ

在清厦門日本帝國領事館

殘百二十萬元ハホダニ募集スルコト能ハズ且ツ  
該百八十萬元中已ニ消費シ盡セル分ハ百  
六十萬元ニ上リ現時漸ク二十萬元ヲ餘スノ  
ミ斯クテハ今後工事ヲ継続スルコト能ハザル  
ヲ以テ彼ノ本月五日ニ開キタル最後ノ會議ニ  
於テ陳總辦ハ議ヲ提出シ豫算ニ對スル未  
募集額百二十萬元ハ不取敢十二名ノ董事  
ヲシテ分担セシメントセシガ是レ一名ノ負担額美  
ニ十萬元ニシテ董事中ニハ已ニ期カル資金ヲ  
有セザルモノサヘアリ又之レアリトスルモ該鐵道ノ  
前途ニ對シ稍ニ疑懼ノ念ヲ懷クモノアリ結局  
董事ハ之ヲ承認セザリシニ陳總辦ハ意平  
ラカナラズ若シ本議ヲ可決スル能ハザル時ハ彼

ハ上京後方法ヲ講ジ資金借入レヲ試ムヤシト  
席上ニ於テ公言セリト云フ斯クテ最後ノ會  
議ヲ終リ彼ハ直々ニ北上セルヲ以テ若シ彼ノ言  
真ナリトセバ今後彼ノ行動ニ對シテハ大ニ注意ヲ  
拂フマキ價値アルモノトス尚ホ当初該技師ノ  
見積リニヨレバ此漳厦鉄道豫算ハ三百五十万  
元ヲ要スト陳總辦ハ三百萬元ヲ以テ足レリト  
為セドモ要スルニ本鉄道ヲ完成セントセバ今後  
百二十萬元以上ノ資金ヲ募集セザルヲ得ズ陳  
總辦ハ果シテ如何ナル方法ヲ講シ何所ヨリ、  
之ヲ募集セントスル乎

一方陳總辦ハ斯クシテ北上スルト共ニ当地ニ於  
テハ株式ノ再募集ヲ開始セリ其再定章程ヲ

在清厦門日本帝國領事館

譯出スルコト左ノ如シ但シ本則ハ資金募集ニ  
吸々タル為メ愚民ヲ悦服セシムルノ文言多ク列  
底具眼者ヲシテ一日直々ニ是認セシムルニ足ラ  
ザル粗漏極マルモノタルヲ免レズ

### 福建全省鉄道株式會社株主募集

#### ニ関スル再定規則

公啓者吾ガ福建鉄道ハ開辦以來成績優  
美内外人士皆ナ噴々稱賛シテ止マズ今オ  
一段工事ハ終リテ直々ニ車輛ヲ往來セシムル  
ヲ得ントシオニ段工事ハ方ニ着手セラレント  
スレドモ稍々時日ヲ要セザル能ハズ江東橋(鉄  
橋)ハ最モ大工事ニシテ其費用亦タ大ナリ  
前ニ内外諸君ノ熱誠ナル賛同ニヨリ株式ヲ募



集スルエトヲ得シガ尚ホ漳厦一線路ノ費用ヲ充  
ス能ハズ而シテ大利ノ存在スル所應ニ同胞ト共  
ニ樂シンデ之ヲ亨有セントス依テ茲ニ株式募集  
規則若干条ヲ議定シテ之ヲ各府州縣ニ分布  
シテ以テ鐵道ノ利益ヲ知ラシメ若シ全省ノ鉄  
道開通スルノ曉ハ粵、浙、贛、各鐵道ト  
連絡シ收利自ラ普ネカレバ夫レ交通ノ便  
足リテ以テ文明ヲ輸送シ物産ヲ増進セントセ  
バ將ニ鐵道ニヨル外ナシ謹テ本規則ヲ左ニ列  
記ス

一、本公司ハ商部ノ許可ヲ得名ケテ商辦福  
建全省鐵路有限公司ト稱シ地方官之カ  
保護ノ任ニ當ル

在清厦門日本帝國領事館

二、先ツ資本金六百萬元ヲ募リ嵩嶼(厦門  
ニ於ケル起点)ヨリ漳州ニ至ル及石美ヨリ泉州  
ニ至ルニ線ヲ布設ス

三、本公司毎株ヲ銀五元トシ通常株ハ申込、  
際銀一元ヲ收メオ一期ニ二元ヲ收メオ二期  
ニ二元ヲ收メ五元ヲ徴收セル後株券ヲ發  
給ス

四、本公司出納銀貨ハ市價ノ上下ヲ問ハズ概  
ネ是平七錢三分ヲ以テ標準トナス

五、本公司ハ株金ヲ徴收シタル日、次日ヨリ利息  
ヲ計算シ一年六釐率ヲ以テ計算シ凡ソ株券  
一枚ニ利札一枚ヲ附スルエトシ本公司ハ毎年  
三月一日ヲ以テ利息支拂ノ期ト為シ各株主

ハ利札ニヨリ利息ヲ支給セラレ港外地方ニ在  
リテハ暫ク經理處ヨリ支給ス

六、本公司株式ハ一人一株ヨリ一萬株以上ニ至ル均  
シク制限ナシ且ツ多数ノ株ヲ以テ一株券ト信  
成スルコトヲ得

七、株金ヲ一時ニ支拂フモノハ優先株トナシ此種ノ  
株ニ対シテハ開業後純利益ノ二十分ノニヲ  
以テ特別報酬トナシ十年ニシテ止ミ以後ハ  
普通トナシ

八、株式申込ノ後引續キ株金拂込ノ力ナキモ  
ノハ商律ヲ按照シテ新聞ニ廣告シ一ヶ月  
内ニ拂込マシノ若シ期限ヲ經過スルモノハ  
株式權ヲ失フ

在清厦門日本帝國領事館

九、本公司内ニ株主名簿ヲ設ケ自ラ株式ヲ  
買ヒシモノト又轉賣セシモノトハ簿ナク之ヲ本簿  
内ニ記明シテ證據トナス

十、本公司ハ株式ヲ專ラ清國人ヨリ募集シ若シ  
外國人ノ為メ代リテ株式ヲ購買シ又ハ株式  
ヲ以テ外國人ニ賣渡シ若クハ賣入レスルモノハ  
本公司概ネ承認セズ

十一、若シ株主ハ株式ヲ以テ他ノ清人ニ轉賣スル  
コトヲ得唯ダ須ラク商律ニ遵照シ先ツ  
讓受人ト共ニ本公司ニ赴キテ姓名簿籍  
ヲ報明シテ株式及利札ノ換紙ヲ受ク

十二、株券遇々賣入等ノ為メ糾葛ヲ生ジタル時

八本公司ハ只ダ株券ニ記載セラルルヲ以テ  
 テ負権者ト認メ又其人ヲ以テ責任者トス  
 十三各株主ガ若シ公共營造物及子孫長久ノ  
 計ノ為メ購フ所ノ株券ヲ以テ本公司ニ未  
 リ永遠買售願入ヲ許サバ爾旨帳簿ニ記  
 入及株券ニ捺印ヲ求ムル時ハ本公司ハ當ニ  
 捺印シテ以テ鉄道ノ永代権利者タルコ  
 トヲ保証ス  
 十四各株主所有ノ株券及利札ヲ若シ紛失セシ  
 時ハ應ニ先ツ新聞ニ廣告シ保証金ヲ提  
 供スレバ株券ヲ補給スマシ以後若シ枝節  
 發生スル時ハ尚ホ紛失者ノ責任トシ本  
 公司其責ニ任ゼズ

在清厦門日本帝國領事館

十五本公司募集スル所ノ資本金ハ專ラ鉄道  
 經營ノ為ニ用ヒ他用ヲ許サズ現ニ募集  
 済ミノ銀款ハ暫ク著名ノ銀行殷實ナ  
 ル錢莊ニ預ケ入レ利息ヲ收メテ之ヲ應用  
 ス  
 十六本省外省ノ論ナリ官商ノ獨力五十万兩以上  
 ラ申込ム者アル時ハ路章カ九条ニ照シテ  
 商部ニ呈明シテ旨ヲ請ヒテ優獎シ又株  
 主ヲ募集スルコト五十万兩ニ及ブモノアル  
 時ハ商部ノ奏定セル十二等章程ニ照シ  
 ●商部ニ呈シテ核對ス  
 十七株主會成立ノ後遇ニ議決事件アル時  
 ハ一千株以上ヲ有セル株主ハ一議決権アリ

(並ニ選舉權及董事ニ選舉セラルル權アリ)  
餘ハ一千株ヲ増ス毎ニ一議決權ヲ加付シ  
唯ダ一人ニ付テ多クモ二十五議決權ヲ越スル  
コトヲ得ス若シ一千株ニ滿タザル株主ハ其  
株數ヲ聯合シテ一千株ニ至ラバ一議決權  
ヲ有スルヲ得

十八、各府州縣及他省各地ニ經理處ヲ設ケ  
株主ヲ募集シ及利息ヲ發給ス

十九、本公司毎年定メテ七月七日厦門ニ於テ  
株主總會ヲ開キ地方官臨場監視ノ下  
ニ董事及監査役ヲ投票公選ス光緒  
三十四年、總理ニ陳宝琛ヲ推選シ葉壽  
堂(道台衙ヲ有ス)胡子春(塩運使衙ヲ有ス)

在清厦門日本帝國領事館

公道ニ楊明簡、馬一猷、林志義、林

薇、劉、楊子恭、劉金榜(以上皆ノ道台衙

ヲ有ス)楊子三(即中)陳星耀、王彦和

(二名知府衙ヲ有ス)ヲ董事ト為シ葉心

鏡(同知衙ヲ有ス)ヲ監査役ト為シ厦門

總經理處ハ尚ホ葉壽堂協理ヲ舉ゲテ

辦理セシメ株金一切ノ事宜ヲ担任セシ

ム外地各分經理處ハ應ニ募集シ得タ

ル株數及株主ノ族籍等毎月一回總經

理處ニ報告シ且ツ募集シ得タル株金

ハ隨時本公司ニ納入スルニ即チ總經理處

ハ銀ヲ受取リ次日ヨリ利息ヲ起算ス

二十、本公司鐵道工事成竣後收入スル客貨運

黃香環黃玉昆(三名)  
台衙ヲ有ス

貸ラ以テ株金利息及鉄道修理等ノ各項  
ヲ支弁シタル外残餘ハ純利益トナシ之ヲ二十  
分シ一分ヲ以テ國家ニ納メ二分ヲ以テ優先株ノ  
報酬ニ充テ三分ヲ以テ積立金トナシ二分ヲ  
以テ委員ノ報酬ト爲シ残十二分ヲ以テ各  
株主ニ配当ス

三、本公司ハ毎年々未ニ出納數目ヲ計算シ  
具冊ノ上商部ニ呈シテ調査ニ備フ且ツ之  
ヲ告示シ新聞ニ登載シテ佈告シ又印刷  
シテ各株主ニ分送ス

二十二、本公司詳細辦法章程ハ將來株金募集  
済后再び株主會議ヲ開キ重テ規條  
ヲ立テ以テ永遠ニ垂ル

在清廈門日本帝國領事館

宣統元年三月 日

商辦福建全省鐵路有限公司 啓

### 三、材料

当地方ハ一帯ニ嚴山ニシテ石材ニ豊富富ナ  
ルヲ以テ工事用ハラツクハ附近地方ニ供給  
ヲ以テ足りテ餘リアリ只ダ枕木ハ当地方ノ  
如ク木材ニ乏乏ノ地方ニアリテハ到底之ノ需  
要ニ應スルノ産額ナリ然カモ良材ニ乏シキヲ  
以テ多クハ当地外國商ヨリ供給シタルモノニシテ三  
井物産會社ノ賣込ニシモノ最モ多ク已ニ五万  
二千本(小樽産ノモノニシテ一本ノ價一元ニ足ラス)  
ニ達セリ尚ホ漳州地方ヨリ一萬本ヲ供給セ  
リト云フ

目下使用シツアル鉄軌ハ交叉点ニ使用セル  
 米國製ヲ除ク外終テ湖北漢陽銅鉄廠ニ  
 於テ製造セルモノ係ルト雖モ関ク所ニヨレハ該  
 廠製造ノ鉄軌ハ少ナカラザルモ他ニ多クノ需  
 要アリ到底本鉄道ノ需要ヲ充スル能ハズ  
 故ニ今后之ヲ外國ニ仰ガザルヲ得ズト  
 已ニ購入済ミノ機関車ニ輛アリ一ツハ獨乙製  
 (A. Boring Builders' Patent No. 6494 Höchste  
 Dampfmaschine) ニシテ当地獨乙商ハセツツ  
 (宝記洋行)ヨリ賣込ニ一ツハ米國製(American  
 Locomotive Dickson works) ニシテ三井物産會  
 社ヨリ供給シタルモノナリ又諸處ノ橋梁用鉄  
 板ハ之ヲ紐育ナル American Bridge Co.ヨリ購入  
 シタリ  
 之、他車輛トシテハ已ニ契約済ミノモノ客車二十  
 輛、貨車三十輛アリ内貨車八輛(Baltimore wheel  
 work 製並ニ Milwaukee car work 製) 已ニ  
 到着セルヲ際テ外多クハ未着ナリ此等車輛モ  
 皆テ各外國人ノ手ヨリ買入レタルモノニシテ各樣  
 式ヲ異ニシ今日甲國品廉ナリト聞ケバ直ニ之  
 ヲ買入レ明日乙國ノモノ堅固ナリト聞カバ直ニ  
 ニ之ヲ買入ルハ状態ニシテ斯クテハ将来修繕ノ  
 甚ダ不便ナルガ如キコトハ毫モ想ヒ到ラザルガ  
 如シ常ニ定見ナキ清人ノ業トシテハ決シテ怪シム  
 ニ足ラザル所ニシテ又其間ニ各担任者ガコミツ  
 シヨシヲ速改セント急リテ買入レ易キモノハ何レヲ

右清厦門日本帝國領事館



間ハズ直クニ契約ヲ結ビ以テ自腹ヲ肥マサントス  
ル弊弊ノ存在スルニヨルナリ

四、工事

漳厦鉄道ノ起点ヲ厦門島ノ西北ニ該島ス  
ル大陸ノ一端嵩嶼ノ中央ニトシテスタンダード  
ライル、コンパニイ、租借地ニ相接シ海岸ヲ去ル  
コトヲ餘ニ出デズ已ニ停車場ハ大約完成シ待  
合所、プラットホーム、機関庫、車庫、給水台  
及駅員宿舎等設立セシ待合所ノ二階ヲ奉  
務室トシ現ニ工事ニ関スル事務ヲ執リワ、アリ  
鉄道ハ厦門漳州間ヲ九十清里トシ中已ニ着  
手セシ方ハ大郎廟(龍溪縣)約五十清里間ナ  
リ軌條ヲ据ヘ付ケ辛クジテ機関車(貨車

在清厦間本帝國國庫車館

ヲ接合セズ)ハ「バンドカ」及「トロウ」位ヲ通  
ガルト  
ヲ得ルハ海濱ニ至ル十七清里ニシテ然カモ之等  
軌道ハ只ニ据ヘ付ケシノミ止マリ至ル所廣  
狭高低アリ現ニ之ガ据ヘ直シ中ナルヲ見ル会社  
内部前途ノ如キ状態ナルヲ以テ工事ノ如キモ  
殆ンド遲クタリ現ニ使用シワ、アル人夫ノ如キモ  
漸ク百名ニ足ラズ以テ等モ多クハ既設各ノ手入  
レニ從事スルモノニシテ工事ハ殆ント休止中ト見テ  
可ナリ

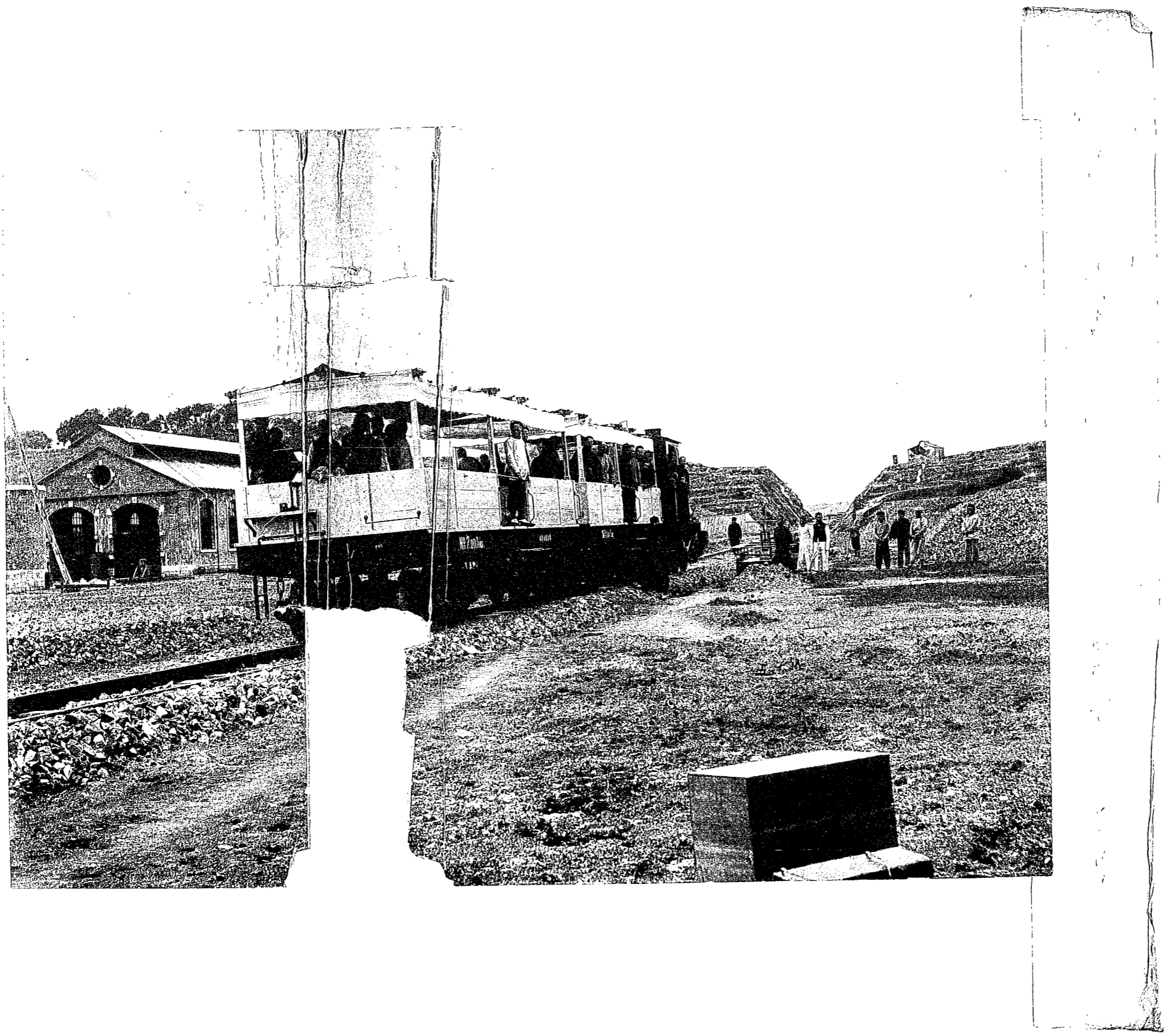
漳厦間ハ平地多キヲ以テ幸ニ工事ヲ妨害ス  
ルモノナシト屢モ只ダ一ツノ大鉄橋アリ即チ石尾  
厦門ヲ去ル約三十清里ニ於テ俗稱漳州大河  
ヲ横キル現在ノ江東橋ト稱スル大石橋ノ所

ナリ江東橋ノ長サ二千呎内外ナリト聞ク以テ  
之レニ架スル鉄橋モ亦二千呎以上ノ長橋ナリ  
トス之レ即チ本工率中ノ難所ナルハ前頭株主募  
集章程ニモ載セラ明ナリ其豫算ハ三十万  
ナリト云ス

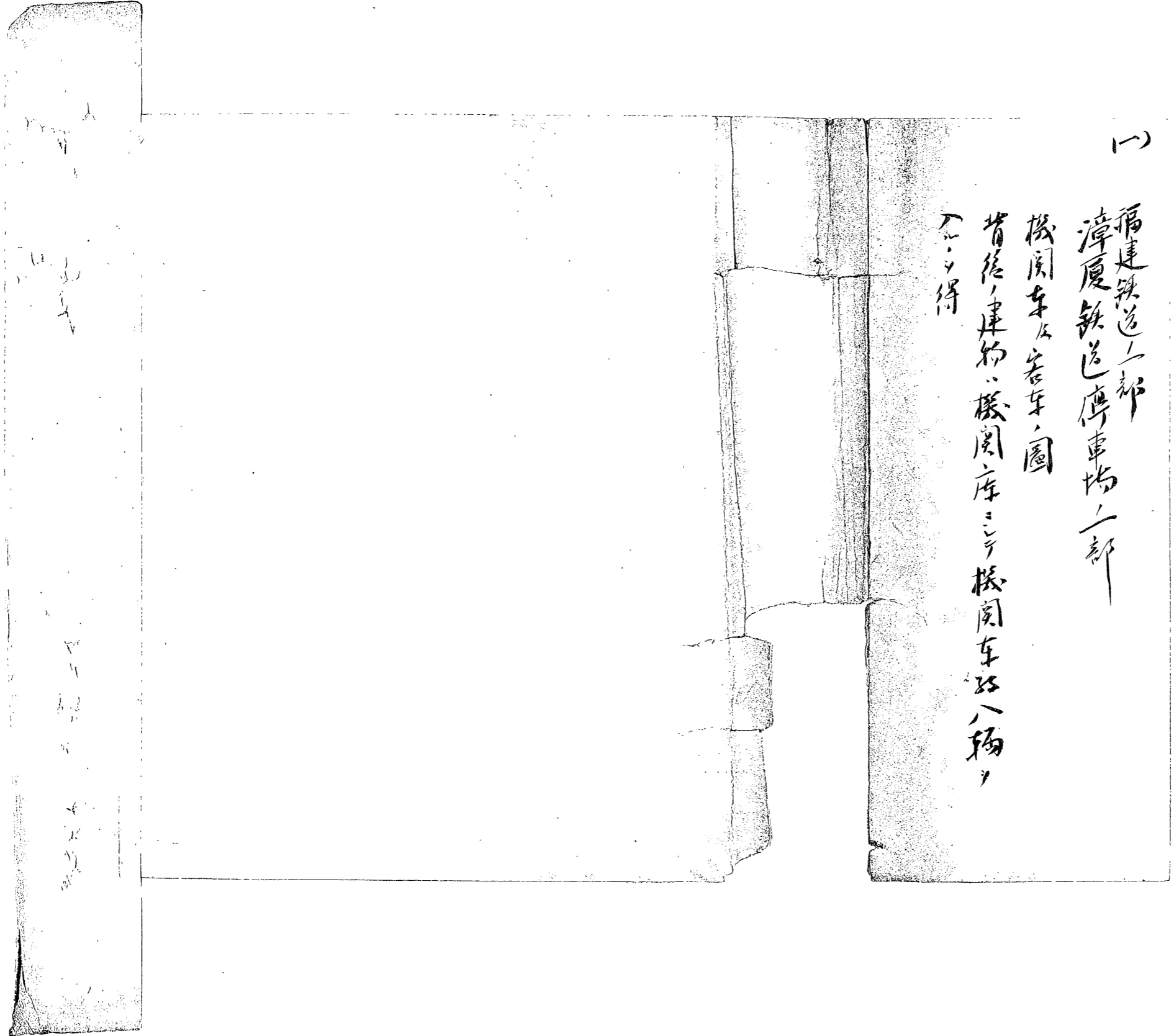
以上右項ニ於テ具述セルガ如ク福建鉄道ノ一部  
タル漳厦鉄道ハ完成豫定期間ハ一年八ヶ月  
ナリニ事実起工以來已ニ三年有半ヲ経  
過セル今日尚ホ未タ豫定ノ三分ノ一ヲ完成  
スルコト能ハズ然カモ内外ノ信用日一日ニ失墜  
シ資本ハ欠乏シ工率ハ割テラレ完成ノ期  
未ダ知ルマカラス福建鉄道ノ前途ヤ頗ル疑  
フ可キモノアリ

在清厦門日本帝國領事館

因ニ曩ニ本月二十日付機密第三号  
信ニ陳宝琛ヲ前北洋大臣云々トセシハ  
前南洋大臣ノ誤リナリ



1-1637

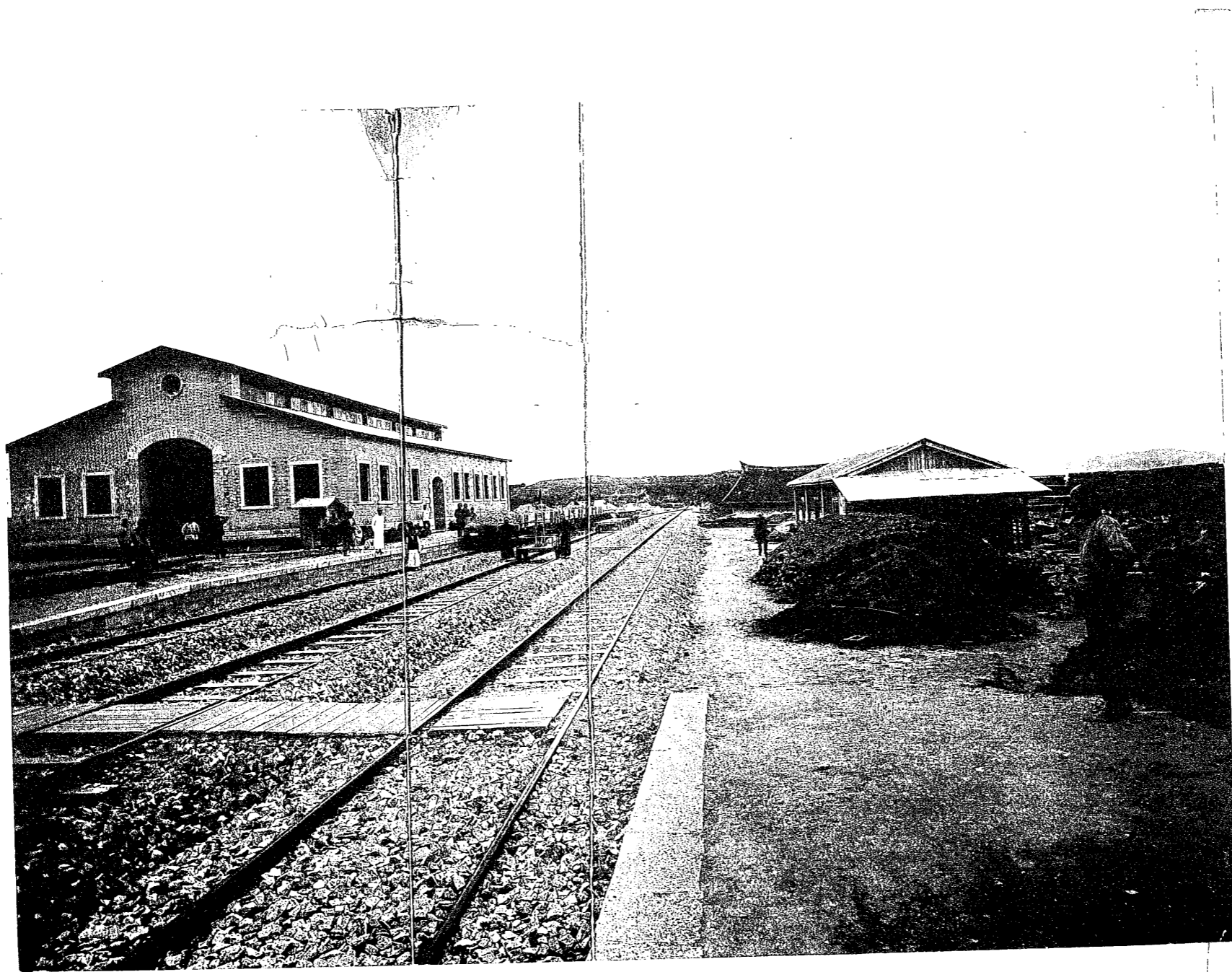


1)

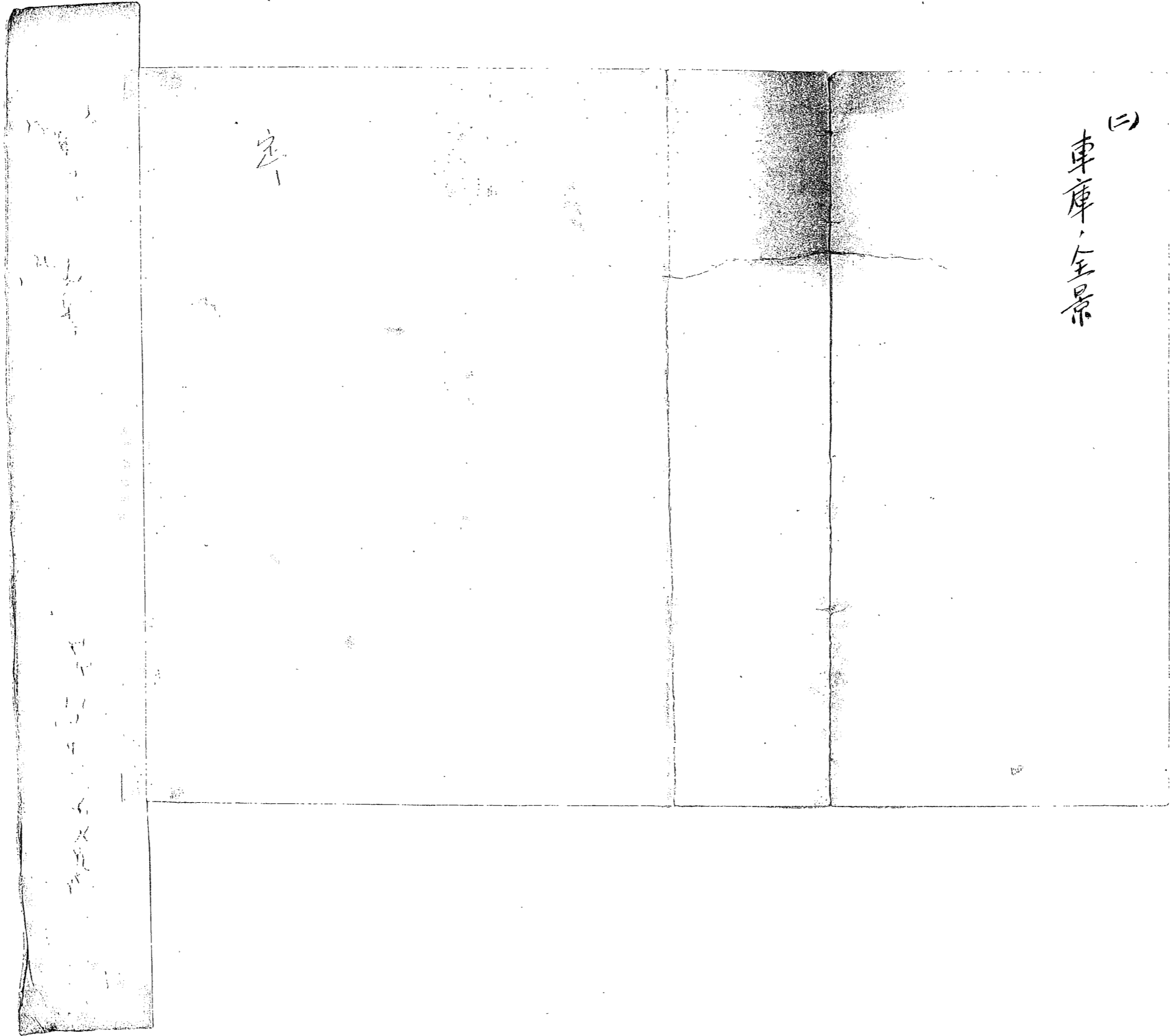
福建鉄道一部  
漳厦鉄道停車場一部

機関車と客車と圖

省後ノ建物ニ機關庫ニシテ機関車ヲ入揚シ  
不レシ得



1-1637

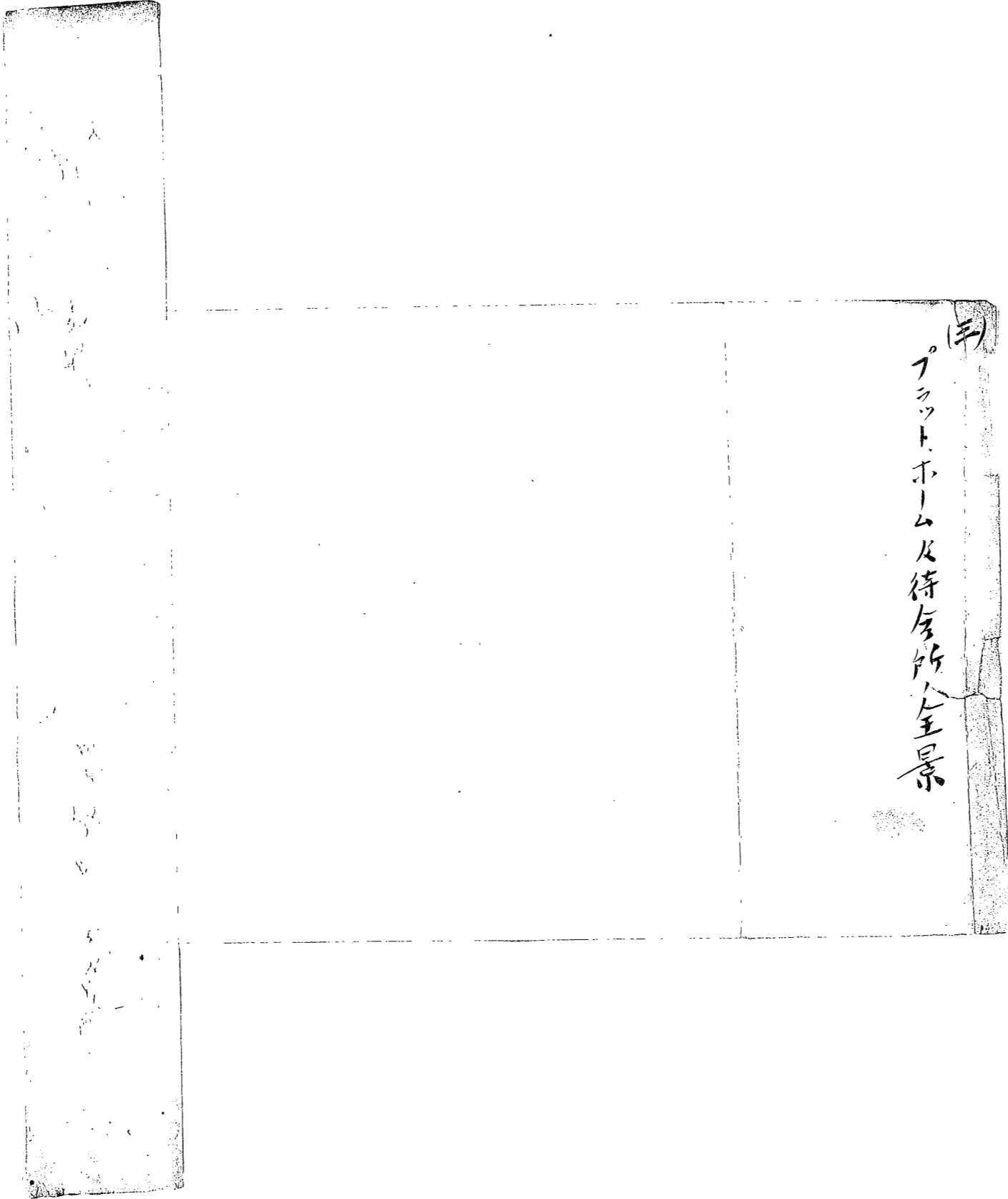


1-1637



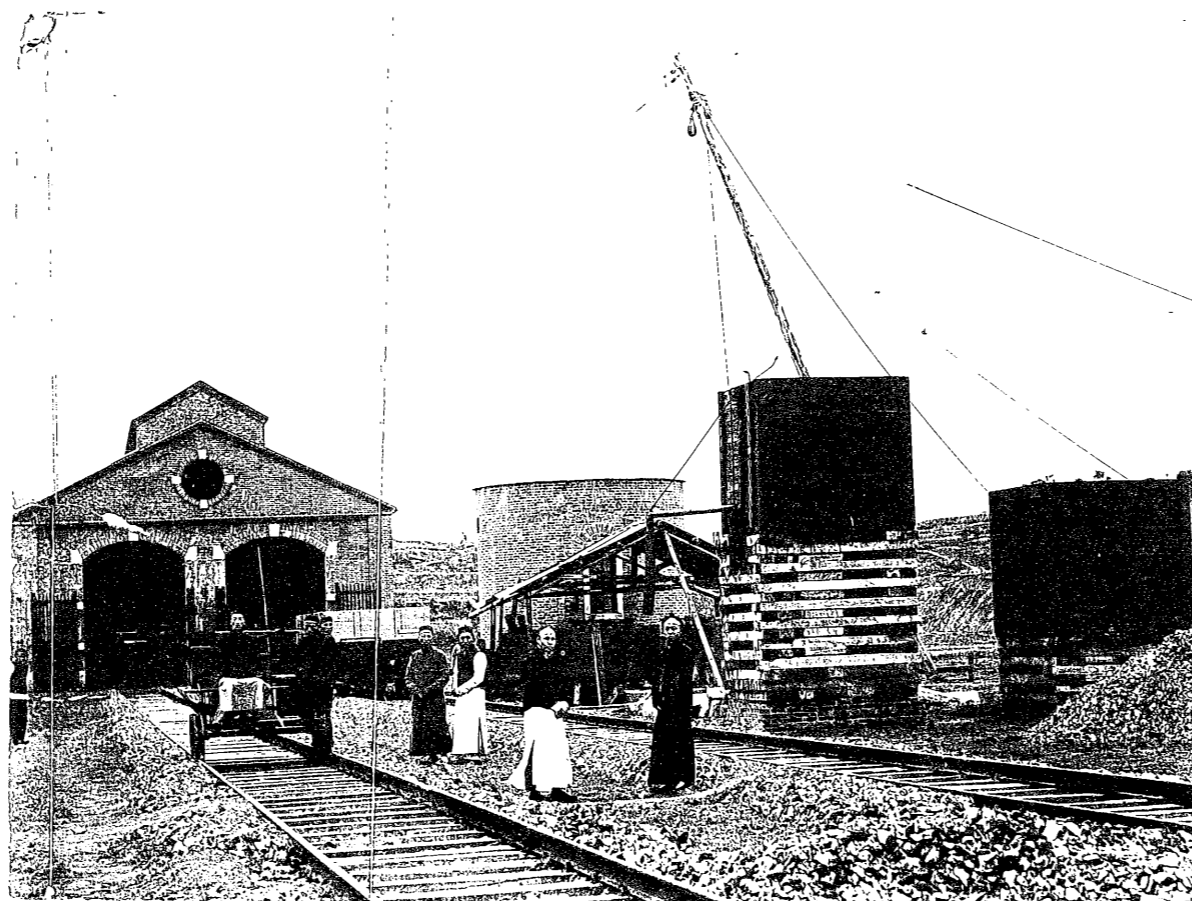
1-1637



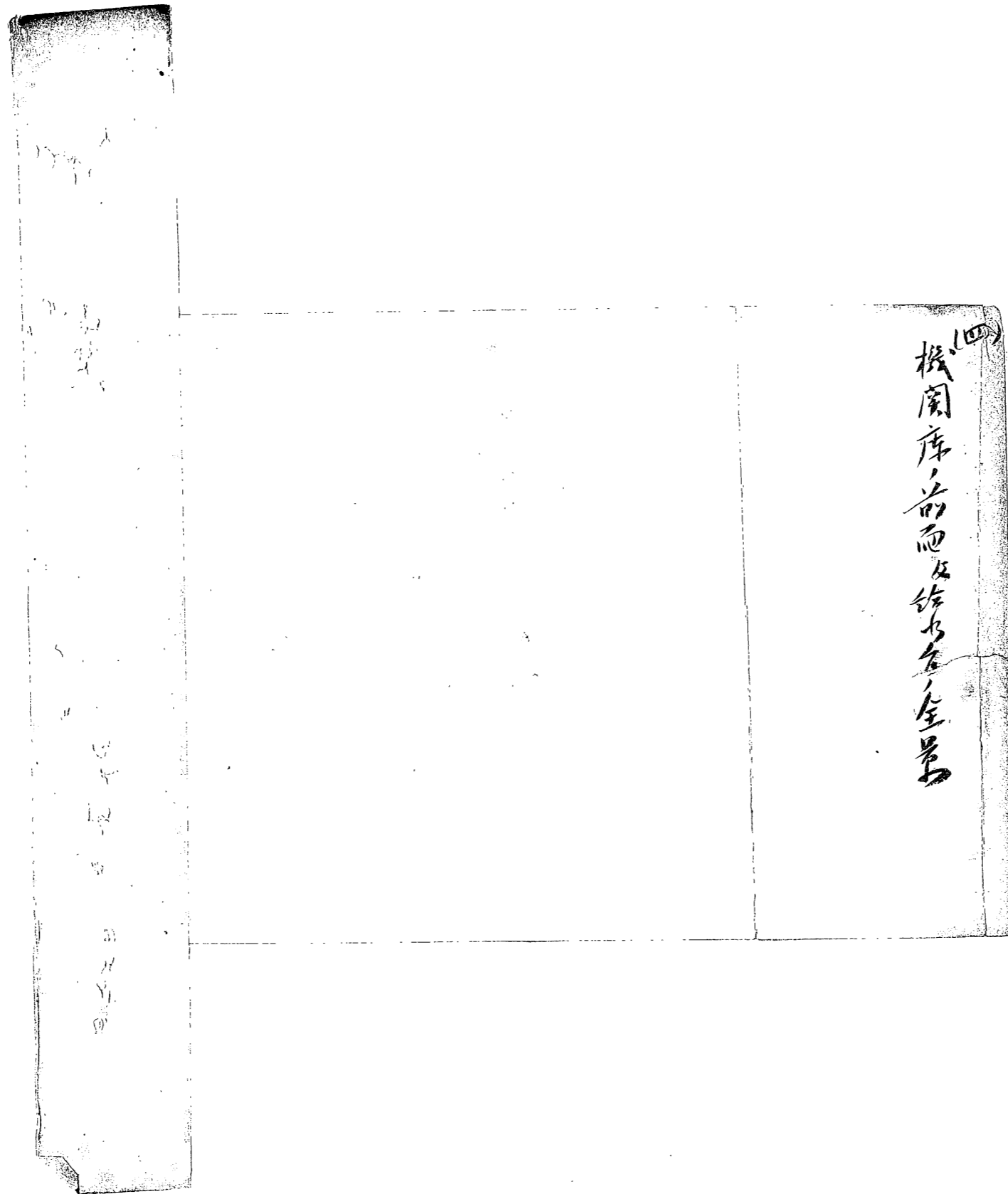


(三)  
プロットホーム及待合所全景

1-1637



1-1637



(四)  
機園序前而及作水全量

1-1637



1-1637



布政年中ノ事

1-1637

第 三 門

次官

政務

通商部  
第四號  
第三號  
第一號

新聞掲載

第 三 門

第 三 門

明治四十二年六月十四日接受

第九九號

明治四十二年六月

在廣東

領事 瀨川 漢之進

外務大臣 伯爵 小村 壽太郎 殿

深潮鐵路公司組織之圖を報告

本日當地發行新聞紙、報エントコロ

ニヨリ、近頃嘉應州及潮州、紳

商等集コリテ、深潮鐵路公司ナルヲ

起セリ、組織ヲ開クニニテ、

資本金ヲ一十株十口即チ二

在清國廣東日本領事館

百萬株トナシ、其線路ハ深圳

ヨリ惠州ニ入り、歸善縣、淡水、三多

福及、海豐、陸豐、二縣ヲ經テ潮州、

惠來、普寧、揭陽等、諸縣ヲ過テ

潮州府城ニ至ル。潮汕鐵路建築ニ至ル約

六百里間、鐵道ニシテ已ニ株式募集規

程ヲ定メ、之ヲ發起スル潮州嘉應州、高

陽及南洋居留、清國人、於テ既ニ

資金、大部ヲ分担シ、郵傳部、批准

ヲ保テテ直チニ開辦スヘントス

右所登考、コト、及報先至、敬具

機密第九號

第一課

明治四十二年七月十九日

在厦門日本領事館

事務代理領事官補木村安三郎

外務大臣伯爵小村壽太郎殿

福建鐵道ニ関シ稟報件

從來専ラ福建鐵道布設工事ノ  
任ニ當レル技師王廻瀾ハ總辦陳玉  
琛ノ為メ特ニ福州ヨリ招致シテ工事全  
權ヲ一任セラレ客年初以來其職務

在清厦門日本帝國領事館

ニ執掌中ナリシガ元來氏ハ造船技師  
ニシテ鐵道工事ニ殆ント無経験ナルヲ以  
テ工事進捗大ダ墓々敷カラズ加フルニ  
會社内部ノ不統一、為メ工事ハ常ニ  
羈束セラレ而已ナラズ資金欠乏其  
他諸種ノ掣肘ニ左右セラレ三々年ノ  
星霜ヲ過シ百七八十萬元ノ資本ヲ費  
ヤシ猶ホ漳厦線ノ十分ノ三ヲモ完成  
スルコト能ハザルニ至レリ該技師ハ前途大  
ダ疑懼スマキモノアルヲ知り名ヲ帰省ニ藉  
リ辞任以テ其責ヲ免セントシ已ニ十数日  
前辞表ヲ提出シ後任者トシテ已ニ彼ノ友  
人某技師ヲ招キ以テ之ヲ推薦中ナルガ會

作

長

2124



社ハ此際技師ヲ交迭スルハ甚タ不得策ナルヲ以テ該技師ガ結束聽許ヲ俟チツアルニ不拘今尚ホ之ヲ許サズ百方畱任ヲ勸告中ニ有之候

資金募集ニ関シテハ已ニ及報告置候通り本年陰曆三月株主募集、再定章程ヲ作り專ラ其募集ニ尽力中、慶弔ント之ニ應ズルモノナリ其後陳總辦ハ北上シ游説ノ結果北京政府ニ於テ外債ヲ募リ其中ノ一部ヲ以テ該鐵道資金ニ充ツルコト、シ其旨已ニ約一ヶ月前鐵路公司ニ電報アリシガ元來該鐵道ハ福建人ガ自己ノ資本ヨリ獨立經營セントスルモノニテ今中途ニシテ外資

在清厦門日本帝國領事館

ニ依頼スルハ当初ノ主旨ニ及シ株主ノ首肯スル能ハザル所ナルヲ以テ未ダニ其諾否決セザル次第ニ有之候

該鐵道ハ福建省開發上頗ル重要ナルニ拘ハラス已ニ多大ノ日子ヲ費ヤシ巨額ノ資ヲ投シ今尚ホ三分ノ一ヲモ完成スル能ハズ此終放任スル時ハ施イテ外人ノ棄ズル所トナリ遂ニ回復スル能ハザル運命ニ陥ルヲ恐レ今回郵傳部ヨリ特ニ監査員ヲ派遣シ從來ノ成績ヲ監査セシムルコトニ決シ此公着厦ヲ見ルニ至ルマシ尤モ郵傳部、此舉ニ出ダントスルハ素ヨリ成績監査ニアリト屢モ一ツニハ斯クシテ該鐵路公司ニ對スル一般ノ信用ヲ

強固ニシ今後株主募集等ニ裨益スル所有  
 ラシメントスルナリ而シテ未本月二十三日ニ當  
 地ニ於テ株主總會ヲ開會スル答ニシテ該監  
 査員ハ此總會ニ立會ヲ豫定ナリシカ監査  
 員ノ到着ハ尚ホ延期ス可ク己ハ得ズ總會  
 ニ於テハ監査ヲ受クル煩備ヲ為シ且ツ之ニ對ス  
 ル要求事項ヲ議定スル豫定ナリト聞ク尚  
 ホ曩ニ南洋清人慰問使トシテ派遣セラレシ  
 王大貞ハ婦踏夫人(我台湾籍民林李商ノ姉)  
 死去ノ報ニ接シ喪服ヲ命ゼラレ当地ニ滞在  
 中ナリ氏ハ泉州人ニシテ該鐵道ノ前途如  
 何ハ故郷ノ為ニ共ニ憂慮スル所ニシテ幸  
 当地ニ滞在中ナルヲ利用シ郵傳部ノ監  
 査ニ立テ會ヒ其結果ニヨリテハ上京後相當  
 尽カスル所アラント致シ居リ候  
 要之該鐵道ハ今回ノ株主總會及郵傳  
 部監査員着履ニヨリ大ニ變動可有之  
 豫期被致候其結果ハ追テ報告可致右  
 最近内閣ノ終御參考迄デニ不取敢及稟  
 報候敬具

在清厦門日本帝國領事館

第3門

機密

明治四十二年八月十九日  
同 八月十九日  
廿九日

第一課

明治四十二年八月十一日  
明治四十二年八月十一日



了

一〇三三

在

伊集院公使

少村

福建鐵心ノ官ニ付

外務省

福建鐵心

ニ關シ

在厦門森事務代官ヨリ別紙寫ノ通報有

之候ニ付爲御參考右茲ニ及御送付候間御

査閱相成度此段申進候也  
大公使、統監及都督宛ニ限  
リ也ノ代リニ敬具ヲ用ツ

別紙機密受第二二二四 號 附屬書寫添付ノ事

五七

第 3 門

機受第2740

明治四十一年九月十五日發受

主管 政務局

要目付了

別紙

第一課

南洋鐵道株式

明治四十一年九月

在厚内領事館事務代理  
領事官補 本村 三郎

事務主任 本村 三郎

福建鐵路公司 最近狀况書

福建鐵路公司最近狀况別冊  
取調及資料、取調本冊  
及本冊、取調本冊

在清廈門日本帝國領事館  
發送付録、取調本冊、取調本冊

福建鐵路公司最近狀況

一、役員ノ交迭

二、資金

三、才三田株主總會

一、役員ノ交迭

福建鐵路公司總辦陳宝琛、西太后登極以來就官ニ志シ清曆本年三月ノ株主總會ヲ終ルヤ總辦ノ名目ヲ殘シテ上京セシ、已ニ報告セシ所ナルガ其後陳ハ該公司ガ信用益ニ失墜シ資金募集甚カ困難ニシテ前途成効ノ覺來ナキヲ看破スルヤ遂ニ其責ヲ免セントシ北京ニ於テ百方運動ノ結果遂ニ郵傳部

在清廈門日本帝國領事館

ヲシテ特ニ陳炳煌ヲ選孤シ自己ノ後任代理者

タラシムルニ至レリ而シテ新任者陳ハ八月三日(清曆六月廿日)上海ヨリ來任セリ

今陳炳煌ノ知人某氏ガ陳炳煌ニ付キ内語スル

慶ヲ聞クニ彼ハ原籍福建省漳州府ノ人ニシテ

從前廈門三都羅定街ニ居住シ当地方ノ學

人ナリト云フ前年陳壁ハ彼ヲ授イテ廣東交

通銀行ノ總辦ニ任ゼシ、アリ彼兄才八人アリ

テ其才三ニ位シ才四ノ陳和丞才六ノ陳和持、

ニ名ト共ニ從來佛國欽土安南西貢ニ居住シ步

順興及萬順安ナル店舖ヲ設ケ精米業ヲ為

シ佛國、安南總督ハ彼等ヲ擧ゲテハ大商ノ一

ニ加ヘタリ平素佛人ト往來シ且ツ廈門ニ在リテ

萬利源即ヶ前年、芳宝源ナル銀行ヲ開設セ  
 リ尚ホ同ク所ニヨレバ彼ハ已ニ佛國ニ入籍セル  
 甚ダ久シト今忽チニテ福建鐵路公司、總辦  
 ニ任ゼラル或ハ後未該鐵路、對シ佛國技師ヲ  
 僱聘スルガ如キニ至ラザルナキヲ保シ難ク彼ガ今後  
 ノ舉動ハ最モ警戒ヲ要ス可キナリト  
 右ハ大体ニ於テ信ヲ措クニ足ルモノナリト屢モ但ケ彼  
 ガ佛國ニ入籍セリ云々ハ疑ナキ能ハズ何トヤレバ該  
 鐵路ハ從來數次報告セシ如ク清國ガ全然獨  
 立經營ヲ期シ目下資金ニ於テ技術ニ於テ共ニ  
 悲境ニ在ルニ拘ラス尙<sup>尙</sup>初ノ宗旨ヲ貫徹セント力  
 ヲツ、アル有様ナレバ陳炳煌ガ外國籍民ナリトセ  
 バ彼ニ如何程ノ資産アリ信用アリ又經驗アリト  
 屢此此際之ヲ總辦ト為スガ如キイ芳々之レ無カ  
 ル可ク但シ彼ガ從來ノ經歷上佛國ニ縁故淺  
 カラザルノ一事ハ疑フ可カラザル所ニシテ此点大ニ警戒  
 戒ヲ要ス  
 陳炳煌ノ未啓右ノ如シ然レバラ公司内産役  
 連中ガ之ニ對スル態度如何ト云フニ陳宝琛在  
 任中ハ産役中殊ニ副總辦葉崇祿ト甚シキ  
 軋轢アリシモ其ノ創立以來總辦ノ任ニ在リ  
 シヨリ稍々重キヲナセシガ新總辦陳炳煌ニ至  
 リテハ僅カニ陳宝琛ノ後ヲ継ギニ止リ資金ノ上  
 ニ於テ得テ經歷ノ上ニ於テ何等採ル可キ所ナキヲ以  
 官派ノ總辦トシテハ免モ角現時当地ニ於テハ事  
 實上虚位ヲ擁スルノ觀アリ實権ハ葉崇祿ノ

在清厦門日本帝國領事館



掌握スル所アリ茲ニ於テ新旧兩者ニ関シ各批評アリ  
 新任者ニ対シテハ或ハ曰ク陳宝琛ガ自己ノ在任中  
 其成績不可ナリシニ鑑ミ該鉄道將來ノ成効ヲ持  
 ニ陳炳煌ニ依嘱セシモノナリト或ハ曰ク彼ハ素ト名  
 ヲ好ム人此地位ヲ得テ以テ自己ノ虚栄心ヲ満足  
 セシムルモノナリト或ハ曰ク彼ハ前轍ニ鑑ミ將來益  
 難辨タルヲ慮リ永ク總辦ノ職ニ在ルナカレマシ  
 ト然シ該公司ノ資金ニ関シテハ別項ニ詳記スルガ  
 如ク郵傳部ト密接ナル關係ヲ有スルヲ以テ其  
 派員タル陳總辦ハ亦タ確固タル資格ヲ有シ  
 相当期スル所アリテ茲任セシモノナル可シト恩料  
 セラル柳ニ福建鐵路タル其全線ノ完成ニ至リ  
 たら頗ル大事ニ属シ元ヲ速成ヲ期ス可キニ非  
 ラズト云モ其一部タル漳厦線ノ如キハ里程ニ於テ  
 僅カニ九十餘清里ヲ出ラズ且ツ平々坦々唯一條  
 ノ江東橋ヲ除ケル他ハ易々タル工事ナリ然カモ技  
 資実ニ二百萬元ニ垂ントス總辦ノ任ニ當リシ陳  
 宝琛タル者宜シク全カク掲注シテ少ナクモ漳厦線  
 丈ケニテモ完成シタル後職ヲ辭シ他ニ讓ル可キモノ  
 ナリ然ルニ彼ハ用辨以未種々好カラザル世評アリ遂ニ  
 該公司ヲシテ今日ノ状態ニ陷ラシム其責一ニ彼ニアリ  
 然カモ中遂ニシテ自己一身ノ榮達ノ為メ遽然職  
 ヲ辭シ難否ヲ他ニ委シ以テ責任ヲ免レシトス不從  
 義之ニ過グルモノナリトテ当地方人士間ニ批難ノ声  
 高シ一説ニ曰ク陳炳煌ノ未ル陳寶琛ノ代理リシ  
 ニ止リ本總辦タルノ資格ナク殊ニ近ク中央政府ヨ

在清厦門日本帝國領事館



リ粵漢鐵道一部管轄ノ命ヲ受ケタレバ(月俸四  
百兩)福建鐵路總辦ノ職ハ断然辭拒シタト眞  
偽未ダ知ル可ラスト虽氏暫リ記シテ後報ヲ俟ツ  
王技師辭職ノ件ハ已ニ報告セシ所ナルガ彼ハ裝  
束其恥許ヲ俟フト雖此際彼ノ辭職ハ工  
事ノ進捗ニ影響スル一淺カラカルヲ以テ公司ハ之  
ヲ職許セズ過般陳宝琛モ亦電報ヲ以テ類リ  
ニ留任勸告中ナリシガ彼ハ遂ニ之ヲ固カス無  
所福州ニ歸去セリ為ニ工事ニ阻礙スル一少  
ナカラスト云フ

ニ資本金

福建鐵道開辦以來最モ困難ナリシハ資本金  
募集ノ一事ナリ漳厦間全線路線募集約

在清厦門日本帝國領事館

三百萬元トシ募集ニ得タル資本金百八十萬元ヲ  
以テ起工セシ所全線ノ三分一ヲモ完成スル一  
能ハズニテ殆ンド之ヲ消費シ尽シ其後百方資員  
金募集ニ尽カスト雖此公司ニ不信用ナル者  
ノ一ツノ應募者ナリ前途甚ク疑懼ス可キモ  
アリ本年三月陳宝琛北上前ノ株主總會ニ於テ  
ホ募集額百二十萬元ヲ十二名ノ董事ニ配布  
シ其ヲ以テ工事ヲ繼續セント主張セシガ該行ハ  
レズ北上後運知ノ結果政府ニ於テ外資員ヲ募  
リ其一部ヲ以テ該鐵路ノ費ヲ補助セントセシモ茲  
ニ外資ト稱スルハ彼ノ常漢鐵道ノ資金融入シ  
外資ノ殘金アリ之ノ内一百五十兩丈ヶ流用セントセシナリ  
ト云フ人アリ)葉崇録以下各重役ニ兼列セラズ

其後公司重役個人、名義ヲ以テニ三連帯保証シ  
大清銀行ヨリ借款セント主張スルモノアリシガ之レ亦  
保証ヲ為スモノ無キヲ以テ其行恟ニ中ナリシガ  
今回、株主總會アリ之ニ於テ其方針精細ト決定  
セルガ如シ之レ決項ニ詳述セリトス

三才三回株主總會

福建鐵路公司ハ株主總會ヲ開ク已ニ救次中例会  
ハ二回ヲ終リ去月二十日(前報)告ニ本月二十日ト  
シタルハ未月ノ誤)ハ實ニ三才三回例会ナリ此ハ株主  
總會ハ慎重ニ開会スベキモノナルヲ以テ該公司ハ  
七月下旬ヨリ其機關新聞ニ開会ノ預告ヲ為  
シ以テ誤リヲ賜サント期セリ其廣告文ヲ  
譯出ス一左ノ如シ

在清廈門日本帝國領事館

商辦福建鐵路公司カ三回株主  
例会廣告

(甲) 會期

七月七日(陰曆)ヲ以テ會期トナス

(乙) 會場

廈門磁街路頭福建鐵路公司トス(即ケ旧  
美時洋行内ニシテ六月未移轉セシモノトス)

(丙) 入場者資格

凡ソ自ラ一千株以上ヲ有ス株主ハ議決權  
ト兼テ董事(理事) 查帳員(監査役)ニ  
選舉セス資格ヲ有ス其一千株ニ及バカ  
ズハ聯合シテ一千株トシテ議決權ヲ有ス  
シ但一人ニ付尚ホ二十五議決權ヲ越ハズ有

スルヲ得ズ

(丁) 株主氏名報告

凡ソ本公司、右大株主及内外ニ設立セラレシ  
右経理處(経理處ニ資金募集、右ノ設ケ  
ラレシモノナリ)、代表人ハ六月十三日以前ニ於テ  
右株主、原籍現住所等敝公司ニ函告シ以  
テ入場券ト引換ヘ証ト友ス可シ

(戊) 工事観覧

開会、前日右大株主及代表者ヲ請ヒ来  
事工事ノ跡ヲ観覧ス嵩嶼(起点博、車  
場地)工務取扱所ニ別ニ接待所ヲ設ケ

(己) 報告

総辦及副総辦、公司、會計及工事情

在清厦門日本帝國領事館

況及総公司附設、右部々、辦法ト成績  
トリ報告ス

八月二十二日(清曆七月七日)ニ豫定、通リ開会  
ノ運ニ至リシガ利害關係ヲ有セル右株主ハ前途ヲ  
氣遣ヒ従而出席者非常ニ多ク念ニ開会セウ  
ルヤ真面目ニ議事ヲ進行スルニ能ハズ当局  
者ニ対スル不平ヲ述バ人身攻撃ヲ為ス等議場  
騷然トシテ之ヲ統一スルニ能ハルヲ以テ直ニ大株主  
ノミヲ以テ秘密會議ヲ為ストシ福建鐵路公  
司階上、幽室ヲ會議室ニ充テテ四方堅  
壁僅カニ一小時ニヨリ出入シ一千株以上ノ株主及  
総辦副総辦董事等ノ外出ヲ禁シテ故ニ  
此以外ノ人ハ傍聴サハ為スルヲ得ズ是ニ於テ所有

株ニ多少コワアレ公司ニ利害ヲ有シ其前途ヲ憂  
 フルハ即チナルニ千株以下ノ株主ガ參觀傍聴サレ  
 許サレガハ不都合ナリトテ不平ノ聲益々高シ  
 而シテ此際討議セラレシ主ナル事項ハ資金回  
 題ニシテ八月二十二日ヨリ二十三、四ニ亘リテ三日  
 間會議シタルニ遂ニ決定ニ至ラス其動議トシ  
 テ最モ有力ナルハ即チ郵傳部ノ勸告ニヨリ其  
 次負ノ未履スルヲ待テ漳厦鉄道全部ノ資  
 金額既成部分ノ評價額未成分豫算額ヲ  
 測定シ郵傳部ノ保証ニヨリ大清銀行ヨリ不  
 足分ヲ借款セントスルニ在リ福建鐵路ニ從來  
 純粹ナル私設鉄道ナレバ若シ本議、如ク施  
 行スルニ於テハ從來ノ性質ハ一変シ少ナクモ半官  
 半私的の公司ト為リ当初宗旨ニ相及スルヲ以テ  
 重役連中ニモ之ノ議ニ賛同スルヲアリト雖モ議決  
 甚ク困難ニシテ未ダ躊躇決セザル次第ナリ  
 尚ホ今回ノ株主總會ニ於テ總辦副總辦理事  
 監査役ヲ選舉セリ其結果左ノ如シ

在清廈門日本帝國領事館

主持總辦留任	陳宝琛	三三二票
(茲ニ主持トシ義上總辦タルノ意トシテ可ナリ)		
駐向總辦新任	陳炳煌	三三二票
(茲ニ駐向トシ實辦ノ意トシテ可ナリ)		
留任副總辦	胡國廉	三三二票
左	葉崇祿	三三二票
新任副總辦	黃畝炳	二九五票
左	林雲龍	二九〇票

左	楊明簡	二六一票
左	林慶編	三〇〇票
左	楊容	二五七票
左	馬厥猷	二三七票
左	劉元勳	二二〇票
新任理事	楊逢年	一五九票
左	蔡資深	一九〇票
左	陳賜祿	一一二票
留任監查役	葉崇華	三三二票
左	黃玉昆	三三二票
新任監查役	傅政	二三〇票

右ニヨルニ終辦其他幹部、重要ナル職ニ在リシモノ、留任ニ至リシ得票數ハ已テ均ニ三三二票ニ至リシ

在清廈門日本帝國領事館

点ナリ思フニ投票權ハ三百二十ニアリシモノナラシテ而シテ茲ニ陳炳煌ハ卸傳部、選次ニ係ルニヨリ之ヲ選挙スルノ必要ナキガ如シト雖モ該公司ハ左然商辦即私辦之ヲ以テ卸傳部ヲ終辦ヲ選次セラルニ於テハ私辦ノ主旨ト相及スルヲ以テ形式上斯ク選挙ヲ行ヒシモノナルマン今固ノ株主總會ノ結果ハ右ノ如シト雖モ選次連中ハ今尚ホ日々會合シテ討議中ナリト云フ

尚ホ今次總會、豫告ハ已ニ之ヲ述マレ所ナシガ開會ノ後日商辦福建鐵路公司オ三次株主例會々場秩序ナルモノヲ發布セリ之レ公表セシモノニ非カレ氏当地ノ一新開、為メ今固ノ終會ノ裡面ヲ暴露セシニテ以テ公司側モ止リナ

リ之ヲ其機關新聞ニ掲載セシ所ニシテ事後救日  
ヲ経過シテ發表セシモノナリ今左ニ之ヲ譯出ス

会場職務

幹事 鄭霽林 陳鍾英

接待係 周吉堂 陳昆来

李瑞生 黄韞山

書記 曹煒丹 蔡鏡湖

庶務係 曾忠卿 吳季懷

会場規則

一、議決権及資格 幹事ハ右株主及代表人ノ  
姓名、株数等ヲ分別列記シ其名下ニ有ル議  
決権数ヲ記入シ尚ホ一千株以上ヲ有スル理事  
及監査役ニ選挙セラルル者ヲ一表ニ記入シ会場

在清厦門日本帝國領事館

ニ貼示シ衆覽ニ供ス

一、選挙 議長ヲ其項人(例ハ理事トカ或

ハ監査役ト)ヲ選挙スト提言セシ時右株主或ハ

代表者ハ票上ニ選挙人及被選挙人ノ姓名ヲ記

入シ幹事之ヲ収齊シテ公開シ其人何点ト列

記シテ議長ニ復命シ票数ノ多キヲ以テ当選者ト

ス一方書記ヨリ全部登録ス

一、議事 議長ヨリ某項事ヲ提議シ右株主及

代表者ノ議決ヲ開キ若シ議一定セザル時ハ之ヲ

甲議乙議ニ分ケ或ハ三議四議トシ幹事ヨリ

議票ヲ右株主及代表者ニ渡ス株主及代表者

ハ之ニ意見或賛否ヲ書明シ幹事ニ返付ス  
幹事ハ之ヲ議長ニ呈明シ公開シテ賛者ノ多



キヲ以テ採議ス一市書記、其次才ヲ登録ス  
 一臨時議長一名ヲ推挙シ凡ソ選舉及議事ニ於  
 テ票數相同シキ者ハ議長之ヲ決ス  
 一規則 (甲)入席喧騒ナルヲ得ズ (乙)提議ノ  
 時若シ討論或ハ駁詰ヲ為サントス者ハ議長  
 ガ全部提議ヲ完リテ後之ヲ為ス可シ (丙)議長  
 ト若シ主或ハ代表者同在ノ時或ハ株主代表者  
 等互ニ同意ノ時ハ須ラク兩人ノ同意已ニ終ルヲ  
 待テ他人發言ス可シ  
 一會議時間ヲ変更スルシ要スル時ハ議長ハ  
 休止止長改期等ヲ為スノ權限ヲ有ス  
 一會期ハ午前九時開会トス  
 會場秩序

在清厦門日本帝國領事館

一 搖鈴開会  
 二 会場職員ノ席  
 三 招待員、総辦、副総辦、同道守ノ席  
 四 招待員、若シ株主及代表者ヲ同道守ノ席  
 共総辦及副総辦、官長(道台)及未賓ヲ  
 案内ノ席ス  
 六 総辦及副総辦ハ公司ノ會計並ニ工事ノ  
 情況及各部分辦法成績ヲ報告ス 経理處  
 ハ株主收入出費若項一覽表ヲ作りテ報告  
 ス (甲)審核處ハ本公司開辦以來本年五月  
 二至八月ノ公司ノ金錢出納台帳及公司若  
 部人員ノ給料支給一覽表ヲ作製報告  
 ス可シ (乙)工務處ハ工事ノ成績狀況及工事



一覽表ニ奉若部人員給料一覽表ヲ作製報告ス  
可シ(丙)購地局ハ購地辦法及購地成績一覽  
表ヲ作製報告ス可シ(丁)採辦處ハ採辦狀況及  
採辦成績一覽表ヲ作製報告ス可シ  
七、總理ハ辭職意見書ヲ宣布ス(陳宝琛提  
出セシヲナラシ)

八、副總理兼兼崇祿辭職意見書ヲ宣布ス

九、總辦代理陳炳煌意見書ヲ宣布ス

十、副總理兼兼崇祿辭職意見書ヲ宣布ス

十一、總理兼兼崇祿辭職意見書ヲ宣布ス

十二、總辦一人ヲ選舉ス

十三、副總辦一人ヲ選舉ス

十四、出席者大株主或ハ代表者ノ提議事項アル

在清廈門日本帝國領事館

モハ或ハ意見書ヲ提出シ幹事ヲ之ヲ議長

ニ轉達シ或ハ期ヲ定メ之ヲ陳述シ以テ決後

ヲ経ルモノトス

### 十六、搖鈴散會

牙齋株主總會ノ開會後定次才ハ右ノ如クナリ

開會ニ至ルヤ已ニ前述べセシ如クシテ公開スルノ能ハ

ズ秘密會議ヲ開クニ至リ加フルニ本會ノ必須

事項トモ株主ノ諸種ノ報告ノ如キ其実行ヲ

見ズ只役員選舉アリシノミ依テ本則ハ殆んど

空又ニ終リ又

第3門

百ノ鳥

川ノ鳥ノ階ス

明治四十一年十一月一日 警務政務局

二五

一九四九三

附屬書類添付

明治四十一年十一月十九日

在福州領事館事務代理

外務書記生

志村成之

外務大臣伯耆村壽吉ノ啟

福建鉄道ニ係スル件

福建鉄道工事状況ハ當地ニ於テ之ヲ詳クシテ  
シ得サレバ同會社ノ内情ニ就テ南ヲ改テ據ルハ  
會社ニ外國人ノ監督スル者ナクシテ清國人  
ノ關係タル中飽濫費 甚シク先年同總

在清國福州日本領事館

理陳寶琛力者内ハ勿論南洋各地ニ出張シ  
當者出身者ヨリ募集シ得タル資金ノ大部分  
ハ已ニ貴州ニ鉄道ハ僅ニ十數哩ヲ敷設セルニ  
過キスニテ最早資金ノ出處ナキニ至リ頗ル窮境  
ニ陥リタルモノ如ク殊ニ株主タル泉州漳州及福  
州人トノ間ニ内訌屢轉 甚シク南洋ニ於ケル株  
主ハ別姓甲乙ノ如ク公然姓名ヲ顯ハシテ陳寶  
琛ヲ罵詈攻撃シタル即副物ヲ關係者ニ配布  
シタル由ニ有之而シテ陳寶琛ハ從前當地ニ居  
住セル際ニ監督不行屬下ニ非難ヲ免シサリシカ  
近來北京ニ在リテ尚總理ノ職ヲ帶フルニ管理  
ノ責ヲ尽ス 能ハサルハ當然ニシテ一方ニハ出資額  
多キ泉州漳州人ノ攻撃ノ為メ遂ニ別姓ノ

乙号ノ如キ 辭職申請書ヲ提出シタルカ 適當ノ  
 後任者ナキヲ以テ其終ニナリ居ル由ニ有之 以上甲ノ  
 丙号ハ同會社ノ内情ヲ揣摩シ得ヘキモノト存  
 シ又丙丁兩号ハ當地ニテ発行シタル 調査 録  
 ニ掲載セラルタルモノニシテ 股 厦門ニ於テ前  
 催シタル同會社總會ニ提出セラルタル 報告ニ  
 一ツ工事其他ノ状況ヲ知ルノ事老ト相成ルニ  
 ノト存一併及市送付ルル市査 宛ニ必交此致  
 及市報告ハ 敬具  
 尚中候宮川伊集院公使ニ送付付致至ル

在清國福州日本領事館

棍紳陳寶琛騙耗南洋僑商鉅資佈告

福建鐵路前年經陳寶琛盡惑同鄉京官公舉其為總理為  
用彼功名且於中取利故得奏派之後不憚萬里長途前來各埠  
向我僑眾苦口乞援我眾不知其奸桑梓關懷各竭心力聚  
全集股二百八十餘萬元先後被其催騙收去一百三十餘萬  
其原議係照商辦公司例辦理投簡公舉總理不意陳寶琛  
鉅款入手竟出傳單仍有稱總理並擅派前保商局公  
款被參革職之粵人鄭勉為坐辦兼購地員其弟陳悅  
菴為支應並採辦員而工程師及路工亦皆擅用其親戚  
包攬其餘無不緊要之管理員乃令股東公舉雖以胡  
子春入股之鉅且經公舉為協理請派其熟識路工之友  
林有道欲來監理工程及股東公議以素孚眾望殷宜可  
靠紳士陳炳煌為購地員均不可得是明明欲將泉漳二  
府之人為牛為馬汗血資財為陳寶琛及其親愛之福州人  
分肥以充其數世衣食之用於是我僑眾見其行不義  
已交股資必成黃鶴補救無從不得不作羊補牢之計  
遂會議未交股項不交代招股者停辦是時陳寶琛亦  
知眾心已貳詐術難施然騙項未完功名未復未肯甘心  
迨去冬

在清國福州本領事館

兩宮升遐  
新君初立乘間以分肥路款賄保今春入京  
召見竟然詢復原官自計所圖已遂騙款耗完而鐵路僅成  
六里竟忘去秋股東會時用鄭照登台宣言總理陳寶琛連  
任四年俟此路告成乃由股東另行公舉之布告今夏乃承  
令鄭照分發奉七月七日款再開股東會另舉總理傳  
單然陳寶琛猶慮股眾咸灼其奸未必再為所惑乃哀

甲  
單然陳寶琛猶慮股眾咸灼其奸未必再為所惑乃哀

甲  
甲

求郵傳部電飭廣東交通銀行總理陳炳煌代為總理詎  
知陳炳煌前係此路議董知陳寶琛種謬妄終必敗  
事因辭議董以知府需次南粵東竟力辭不受現陳寶  
琛計無所出乃仍電囑鄭曉速即照前辦年會以却  
責成望我泉漳人勿慕總理虛名為其所愚而代受  
宣禍並叩乞我

政府諸君仍責令陳寶琛回閩辦完此路免僑眾血  
本無歸異日祖國勸與實業前來南洋招商方有  
敢再出鉅資及代招股本者謹叩

南洋福建漳廈鐵路股東陳芹輝 同佈

楊光州

馬廷勳

楊鴻年

汪震華

在清國福州日本領事館

補錄閩路陳總理辭職書

閩路公司開第三次股東正式會總理陳寶琛遲到辭職意  
 見書一函畧錄於下 閩路已往之歷史當分為三時期方予  
 之始曾無一文之資本乃聯合知交籌借官款以資辦  
 復周懋南洋勸募鉅股當其時鄙人則為公司之乞人及  
 股款稍集歸而組織公司凡董為會之成立及各部份職務  
 之編制靡不按照商律而任責成乃權限不明而意見各執  
 始而復與爭繼而漳泉泉爭始而董不與辦子員  
 爭繼而董與董爭而其爭之最烈也則公司之與工程處  
 幾成絕對之反對鄙人每一赴廈彼等解釋舌敝唇焦終  
 難融化當是之時鄙人則又為公司之調人迨夫意見已成  
 難多調停而全體之機關立形阻滯弱乃惟知推諉強  
 者故為劫持在守各員幾以不辦不為避嫌或遂益使其

在清國福州日本領事館

私圖而因緣以為利機關之渙散與款項之虛糜工程之  
 延誤原因混雜責之甲而彼有辭責之乙而不任受內  
 訐之積外侮乘之誰職其咎及是之時鄙人乃感者公司  
 之罪人矣夫鄙人於公司何所圖利徒以海內外各大股東  
 付託之重早完此九十里之工程以為全省幹枝各綫之  
 模範乃時逾兩年匪惟無功而又有過於公司曾無尺  
 寸之補而一身之蒙恥辱辱直非稍知自好之所能堪  
 鄙人誠不解為此破壞者其有仇於公司乎抑僅仇視  
 鄙人而故為多方以誤之乎其果屬於外侮乎抑公司  
 之自為內訌乎其海內外各股東之付託非人乎抑鄙人  
 所拉致而委任之乎或非其人遂致誤人而自誤乎鄙人  
 百思不得其故則姑為一說以自解曰所可非所習友此等  
 非習則舉任一為其終必至於賤也無疑也蓋公司法人



之資格而與之企圖一法團之事業此其所以顛倒錯亂一誤再誤以至於今者或亦俱難辭咎歟夫以海內外各大股東之資本而為我輩練習鐵路辦法之試驗場則其罪已無可辭然當因其試驗所得而徐圖補救之方則前車之覆後車之鑒也鄙人誠不惜為前車之覆固非鄙人之自為卸責而棄之於後人也公誠欲第一善處之方乃終智盡而能索予權之專觀畫之不負責任意見之各執則隨地皆為危疑鄙人自受予以來存款項則授權於協理採辦材料則受權於董司於總理薪水力辭不受去歲撥賑漳災亦經請於董司會去冬至今又已半年仍不敢領其證自遠於權利原欲與協董及各部分相見以誠各盡職務乃自丁未之冬即規畫橋三認募股事而至今尚無一就每

在清國福州

議一不用一欵集議需時調查需時履勘需時議決又需時既決矣或又從而中變焉凡此兩年來之現狀鄙人降心苦口言之而不省信函議案均存總局及子機已誤則又歸罪鄙人鄙人身為總理即以自遠於權利之故以致有責任而無子權有規為而無效果循是為之即使海內外各股東復慨出其母金而為我公同益厚其資本亦終於無功而有過而况羈身朝籍南北迢遙函電往來鞭長莫及雖欲如前此之調停為後此之補救而不能鄙人又何可不急自引退既誤已往而復誤將來乎今幸值東正式會之期惟望別選賢能以總茲任鄙人不為總理亦在股東之側且以所募海內外各股均有休戚相關之誼惟日夜禱祝此路之速成而推廣於別路云云



宣統元年八月初一日 第九十次發行

論說

閩患應

△大日經及商業應掛日號者

調香錄

（樂子） 四月初

遠可以獲他人好民貪利趨之惟恐不先此人籍懸旗之因三也茲茲三因以避後患則  
請正言以告官吏自諸君之所以為商民者所以為己利也商民非理而出附外則福建  
亡福建亡諸君亦有所不利焉且諸君殘商民將以求利也亦不可得何者人情有走險  
以求生未有束手以待斃者殘之弗堪不走附外人則羣集而相拒耳夫殘一人易殘眾  
怒難眾怒相集以拒諸君諸君不得施其威矣故諸君計以公平廉潔之心臨長眾所  
欲也必與眾所惡也必除此之不圖而殘虐以逞諸君之計誠矣更請正言以告人籍懸  
旗者曰吾為若輩計有不可入籍懸旗者有不必入籍懸旗者矣言乎不可若輩知狐虎  
之說乎虎之害人也厲其聲色張其爪牙其威錄不可向避故人見之則疾走而逃知不  
逃之必無幸也狐則異矣其勢柔其形媚人易而狎之而其毒乃肆嘗盡脂竭氣息奄奄  
猶謂狐之愛我也故有遇虎而不死者未有狎狐而得生者也今日人其猶狐乎彼欲  
噬我羶建將為虎之猛則列強或干涉之而彼不得逞為狐之柔則足以亡國於無形而  
使身受者旁觀者皆泯然不之覺這其既悟而謀所以逐之斯亦晚矣如乎此則知日人  
之所為保護若輩者凡以為吞併吾閩計也閩亡則並若輩而驅之溝壑耳今夫朝鮮之  
人亡國之民也其流亡者無論矣其為日之願民者日亦視之如寇仇獲之如王莽也蓋  
墟夷其國而保其民者求之亡國歷史中曾未一觀彼日人者獨厚於吾閩哉閩亡  
彼力足以自為之又焉用若輩矣且朝鮮猶其遠焉者也吾與近而徵諸台灣台灣者閩  
省之舊屬也其人皆閩人之昆弟也方日人割據之始台民仗義拒日繼乃相率以降  
焉夫既降而為之民管不較親於人籍懸旗者然日人視之委實割屋數惟其意而無  
所顧也台民家產蕩盡生命且莫保日夕而日乃復為虐法以倍之重斂以困之亡國之  
民安有天理人道之足言矣台民雖自悟其降服之非知日人之不足恃率涕泣而思  
祖國然日人更設為苛例以阻其歸時則亦嘗復有生存之餘望者觀於台民之慘狀則  
知閩亡以後其所以待遇若輩者亦猶是也彼台民之中嘗無親日愛日如若輩者而卒  
不能脫奴隸牛馬之禍者無他臺灣既亡日人無所用其民耳所謂不可入籍懸旗者此  
也矣言乎不必去入籍懸旗者其徒雖繁其原因則一而已二則恃此以凌人也夫人道  
莫先於行恕恃勢力以凌人者固非生人之道恃異族之勢力以自凌其同胞者則尤如  
虎之不肖也吾又何深焉一則藉此以避貪吏之禍也然吾以為世界之人類強於羣而  
弱於獨閩商之所以見慮於官吏者不知合羣之故其羣閩商之病有三一曰惡人有誘  
已即忘而隱害之而羣情於羣雖一曰貪婪小利而已表信一曰相合則新謂羣則忘  
義之心生而羣情不可合一曰鄙棄不求滿推利是圖無合羣共先之心而羣情乃永  
無相協之日矣惟其如是故貪官汚吏得大肆其殘賊之技而無所顧忌耳今海疆然故  
此一其心方以圖商業之鞏固立法以共守之官吏肆其虐則集眾力以與之計曲直辨  
利害蓋不待外與保護之勢力而已足以戢其暴心矣況今者國家則有商部地方則有  
商會凡皆以為援助商民而設將力既集更有法律以為之障有會社以為之盾又當懼  
官吏肆虐之為禍乎所謂不必入籍懸旗者此也夫入籍懸旗之害則如彼不入籍懸旗  
之無患又如此其亦可以毅然遠矣不然哀莫哀于去祖國而附異邦痛莫痛于寄祖宗  
而親他族罪莫罪於輔仇讐而殘桑梓及今不圖後悔矣及圖商其念之哉

福建之隱憂者以為在於日人之強橫苟日不吾競則閩患絕吾謂不然近世以來東  
西列強欲擴張其勢力於中國歐吾閩者豈惟日本即日不吾競法德英美諸邦豈可也  
患可勝除哉蓋國家大禍莫甚於人民之內叛強鄰伺其隙也內叛者披異族而謀祖  
邦其禍不至於亡國察宗而不止其在吾則申侯引犬戎以滅周張寶救石勒以亂晉是  
也其在今則閩人之入籍籍者與夫業商而掛日旗者是也夫外人習慣不與華同山川  
形勢地產人工為行軍者之所必察彼將謀我則必假借民以為內應故今之入籍籍與  
夫業商而懸掛日旗者由古之申侯張氏也而說者曰子之論母乃太苛申侯張氏引大  
羊以憑凌上國身為逆首謂亡國之罪人可也吾夫籍懸旗之徒則惟欲日人保護  
之不為官吏所欺耳據之申張張為不倫曰客何知夫古之亡人國也以干戈故明保康  
賓引大羊而以身為逆首余也不然則有所謂滅國新法者其意以為國之所以為國  
家者土地人民主權三者而已三者缺一國乃亡朝鮮之君臣猶未嘗有廢地也亦  
未嘗以大軍攻而取之也而識者曰朝鮮已亡者主權喪也日之謀建則何以異於朝  
鮮彼方欲鳩吾膏脂攫吾寶賈割吾民人然後後客為土夫假不歸彼其權  
我仰其力而講建亡矣夫彼所謂入籍懸旗者豈非欲受日人之保護耶受其權利者則  
必盡其義務日人保之亦必將用之由是而因之以我山川形勢風俗習慣與夫地產  
大王凡以為行軍之助者受其惠者亦必圖其報日人用之彼固將爭先趨附以為吾  
之助媚如此則彼之所以保護吾者且益力吾則而將益厚焉如是日本所不知者彼且  
使之知日本所不能者彼且使之能戰守池華工之從而欺閩人之囑外者何若是其  
忠且幸也嗚呼申侯張寶之所以被逆名于千古者徒以其覆亡宗國耳今充入籍懸旗  
者之所為豈能不足以亡我福健身為逆首猶自以為能世俗亦莫之或究問其終已也  
哉十稔之久而已且大我以一申侯而滅周石勒以一張寶而亂晉今入籍懸旗者力上  
百千萬而未有止區區福建而有千百千萬之申侯將何以堪之雖然閩省官吏亦有罪  
焉彼入籍懸旗者非必甘心為之也必有由焉官吏輩虐食若虎狼彼閩商於其言必肆  
其悖心殘商以為快坐而受殘制則甘之此入籍懸旗之因二也鄙諺有言曰白晝搶官  
官懼洋人入籍懸旗者雖不法而無虞不入籍懸旗者雖違法而莫保鹿死不擇音挺而  
走險此是矣此入籍懸旗之因一也入籍懸旗者官既敢取朝之法則近可以保己身

(第二版)

# 全 國 鐵 路 公 司

## 工 程 全 一 屆 覽 表

自 光 緒 三 十 四 年 六 月 一 日 開 辦 起 至 宣 統 元 年 五 月 底 止

包工姓名	標杆號數	何項工程	工程名目	訂立日期	合同日期	計方價	給方價	外加工數目	共給工程數目	已造工程數目	扣留保固數目	實支數目	鋪 軌 工 程			
													名目	程 度	工 數	支款數目
林保建	五十七號	土	全上	光緒三十四年	光緒三十四年	二千	二千	三	三	三	三	三	鑽枕木鋪造軌路	四千九百	二百零九	八十三元
粘傳仁	七十八號	土	全上	光緒三十四年	光緒三十四年	七千	七千	七	七	七	七	七	鑽枕木鋪造軌路	五千八百	工每工四	三十三元
汪炳軒	一百一十四號	土	全上	光緒三十四年	光緒三十四年	二千	二千	二	二	二	二	二	鑽枕木鋪造軌路	九百五十五尺	工每工四	三十三元
吳錦堂	一百三十四號	土	全上	光緒三十四年	光緒三十四年	二千	二千	二	二	二	二	二	鑽枕木鋪造軌路	十號	工每工四	三十三元
陳佑新	一百四十四號	土	全上	光緒三十四年	光緒三十四年	二千	二千	二	二	二	二	二	鑽枕木鋪造軌路	十號	工每工四	三十三元
黃阿清	一百五十四號	土	全上	光緒三十四年	光緒三十四年	二千	二千	二	二	二	二	二	鑽枕木鋪造軌路	十號	工每工四	三十三元
李依梅	一百六十四號	土	全上	光緒三十四年	光緒三十四年	二千	二千	二	二	二	二	二	鑽枕木鋪造軌路	十號	工每工四	三十三元
林錦而	一百七十四號	土	全上	光緒三十四年	光緒三十四年	二千	二千	二	二	二	二	二	鑽枕木鋪造軌路	十號	工每工四	三十三元
呂而	一百八十四號	土	全上	光緒三十四年	光緒三十四年	二千	二千	二	二	二	二	二	鑽枕木鋪造軌路	十號	工每工四	三十三元
劉拱辰	一百九十四號	土	全上	光緒三十四年	光緒三十四年	二千	二千	二	二	二	二	二	鑽枕木鋪造軌路	十號	工每工四	三十三元
周篤材	二百零四號	土	全上	光緒三十四年	光緒三十四年	二千	二千	二	二	二	二	二	鑽枕木鋪造軌路	十號	工每工四	三十三元
林保建	二百一十四號	土	全上	光緒三十四年	光緒三十四年	二千	二千	二	二	二	二	二	鑽枕木鋪造軌路	十號	工每工四	三十三元
許有益	二百二十四號	土	全上	光緒三十四年	光緒三十四年	二千	二千	二	二	二	二	二	鑽枕木鋪造軌路	十號	工每工四	三十三元
李依梅	二百三十四號	土	全上	光緒三十四年	光緒三十四年	二千	二千	二	二	二	二	二	鑽枕木鋪造軌路	十號	工每工四	三十三元

調查錄

(此表尚有在下半部) (此表尚有在上半部)

包工姓名	標杆號數	何項工程	工程名目	訂立日期	合同日期	計方價	給方價	外加工數目	共給工程數目	已造工程數目	扣留保固數目	實支數目	名目	程 度	工 數	支款數目
陳性友	四十二號	土	全上	光緒三十四年	光緒三十四年	九角	九角	九	九	九	九	九	堤修	全上	七	七元
陳金銓	五十七號	土	全上	光緒三十四年	光緒三十四年	九角	九角	九	九	九	九	九	堤修	全上	七	七元
李漢物	七十八號	土	全上	光緒三十四年	光緒三十四年	九角	九角	九	九	九	九	九	堤修	全上	七	七元
周翠山	九十四號	土	全上	光緒三十四年	光緒三十四年	九角	九角	九	九	九	九	九	堤修	全上	七	七元

1-1637





(按四第)

錄 查 調

紀實

外人違章貿易內地之交涉

桂撫致粵督電 廣州胡護帥鑒梧州張道戊據百色聚永電稟有英烟公司英人譯名下京臣美人譯名即順帶譯人林曉堂並使役四名由民船運紙煙到色發賣經署丞到船查詢並無護照烟難銷售現仍運滬查內地通商向由稅局驗明持單辦理當函詢統稅運直收復定已照章在粵陸卡完稅應毋庸議至保護一層既無護照難實行准經過轉境多係荒僻仍派兵備船在首尾照料出境並知會前途查照以免疏虞等情查英人下京臣美人即順私人內地貿易又未請領護照實屬違背約章所帶貨物經過統稅各卡即應扣留充公一面會商地方官照約處治方為正辦乃恩隆卡輒令完稅一駛固屬大謬應水既已查交知該英人等並無護照即據按約解送通商口岸以便轉交該管領事德辦乃僅派兵備船出境即圖了事亦屬不合除電飭緝追該英人下京臣美人即順到滬立即按照約章運派安員護解到梧其英人下京臣一名即由梧關張道就近送交梧州英領事美人即順一名應由張道派員護解赴東至候督辦轉送廣州美領事發落以符條約並懇督帥先將以上情形酌量照會英美兩領事認真查究先電粵印粵督致桂撫電 撫帥約鑒電報悉英美烟公司英人下京臣美人即順無照在日色貿易殊違約章已照會英美領事通飭該國商民嗣後不得無照私人內地美人即順到梧即由張道派員護送來粵沿途務須按約不得凌虐並嚴密看守勿任脫逃為要湘叩東印

福建議員之奇談

閩省議局議員現陸續到省者十之八九閩省會多數議員假石井巷劉氏屋為議員聚會所以便招待而查研究詎一部分議員以為即就籌辦處較便往返何必另設為所乃起而反對利用其議員某反仰承其意向聚會所翻議復經多數議員以為另設為警堂略為修葺聚實亦遷移左近創後適同鄉高君夢日特由商務印書館暫假關于憲政之書籍一份貯藏該所為議員研究之資一部分議員亦赴商務印書館將提一份陳列籌辦處之招待所于是曩時選舉之運動不幸復見於今日蓋印互選議長是也議長一席多擬選舉舊資格以舊資格之聲已震動於各議員腦海之中而各議員之心理上亦相符合固無怪有希望三年後之保舉者而最足輕視議員之身價者莫如某商會總理王邦懷順昌舉人高登鯉竟投置票到候選之為憲派尙不知為國民公舉是亦可嘆之甚也又聞多數之議員擬照山東袁前撫 奏准議長優給薪水不得兼差辦理彼一部分議員為不便已起而抗議其居心又可知矣

一日兩警

上月十七日午刻城內仙塔街登龍巷某姓住屋不戒于火忽兆焚如計延燒三棚幸各地火兵趕行撲救始得撲滅是夜上渡亭頭鄉某排屋又失慎以火燒去該樓十餘間附近杉木堆被延燒者計十三堆每堆價值數百元千餘元以及數千元不等都付一炬自是夜十一點起火約燒四點鐘之久火勢始見稍緩及天明火乃滅倫非水龍接續灌噴則木堆之殃及者必更無底止是役也崗台之抽部紙幫聚羣社安樂社木帮衛社萬壽鄉約所之水龍兩大架並安樂社之手龍水桶等為最得力云

緊要廣告

本公司開設南台壹豐洲商業研究所內辦運新式機器大小鉛字訪聘技師承印中西書籍報紙股票仿單招帖五彩圖畫及各種文件排印精良裝訂美備並代辦各色名紙以供採用又自行鑄造各種鉛字花邊鉛條書邊選料完善製造精工 貴官紳商欲印刷或購造上開各件者請 惠臨本公司面商自當格外克己如期出賃冀仰 諸君光顧之盛焉

啓明印刷有限公司廣告

緊要廣告

商界諸君子俾鑒竊以我國商人之向無法律為之保護維持故危言迭乘無從排脫列權外益未獲挽回此商務所以日形頹敗也今者脩訂法律大臣從事於商法之編制委侯君世藩來閩調查商民習慣以為編訂商法之預備曾來本所致請切實報告夫編定商法他日成文之頒布其能否裨益商人實以今日之商人能否力陳利害為斷凡我商人宜知此舉關係切身今日之調查即以享他時之保護故敢所一再籌議著實調查除自七月十六日起排日分訂各商幫實所會同各職員商辦調查格外用特廣告明達諸君子希將貿易情形及商界所有艱難狀況條列 賜教俾便彙繳北京法律館以供採擇至為盼禱專此奉佈順請 閩省商業研究所同人拜啓

收資廣告

內埠外埠購閱本錄諸君鑒 啓者本錄前刊廣告請購閱諸君惠寄該資當蒙即付者固不乏人然迄未照寄者實居多數茲擬于本第十次發行之後內埠由本錄帳房提印簿躬向 諸君收資到時務祈惠付以資開轉外埠請併郵費壹元零捌仙統行迅速郵寄前來勿再延緩為荷 調查錄經理人謹白

本錄廣告

本錄創辦伊始見聞有限對於調查事件深以不實不盡為歎 熱心諸君如有所知務望錄寄福州南台梅塢本錄編輯所以冀斯舉不勝盼禱之至 調查錄經理人敬啓

價目

每月二次全年六角半年三角每次零售銅元四枚 外埠郵費照加 發行所 南台梅塢 福州社會辦事處 編輯所 南台梅塢



# 調查錄

外部電閱督飭救火會遷徙文書後

(圖照原稿)

昨午以來我國南救火會與駐英各國領事爭天安寺地址一案屢被國內各報想聞者諸君已早知詳更無待鄙人之贅舌矣頃者又聞七月初十日外部電閱督飭救火會先行遷徙然後再議該寺之所屬茲得部電原文錄駁如下

救火會案本部續接東電因英使請照該聲明之意切實答覆

按天安寺者我福建之公產也以福建之公產為福建救火會辦公之所果何與于彼英公使彼英公使如欲主張天安寺為彼英國之地址則彼英有舉証之義務彼

如不能舉証則我儘可置之不理更何必求其切實答覆耶

昨復准稱萬難允行令退讓辦法儘可允救火會搬出之後兩面均暫不用俟本國工部派員會同閱督所派之員勸明請再電閱督飭將救火會先行搬出詳報到日即由

彼此派員察勘等語

自英領事以一紙之照會致閱督後我福建救火會即舉出種種証據以明天安寺之為我有而彼英領事則僅恃以照會之空文與兩紙不相干涉之契據今又欲以

空言令我遷徙然則他日者彼英公使塔夏與會外部謂我福建三千萬人所住房屋皆為彼英國之物請先令三千萬人遷徙然後再由兩國派員會同察勘問吾

民將何之耶嗚呼可懼嗚呼可懼

總之歷史也石碑也凡此種種証據或福建救火會蓋已提出之足以證明天安寺之為我有而無餘矣公使如欲命救火會遷徙必先主張天安寺之為彼物

如欲主張天安寺之為彼物必先一面提出証據一面辯駁我救火會所提出之証據也蓋救火會之遷徙乃決定天安寺歸屬于英國之結果非救火會自行遷徙則

不得決定天安寺之為何國屬也乃英公使全不顧此正當之手續實以一紙照會

騙官壓民試問我福建三千萬人果能甘心受此外人之踐踏否耶

頃復再四商議使仍如前議云此係小事彼此均為體面何妨搬後會動總易了

事云云

鐵証如山天安寺為我閩民之公產權利所在絲毫不容假借我閩民之所以力爭者為權利也非為體面也彼英公使明知地非彼英領有欲為英領領全體面出此弄信

耶

查此事前准號電云災後復函已有搬後即電駐使地歸華官自用之語

地為中國之地官用也民川也皆為吾事更何必往彼英領之電英使而後華官始

茲來照語仍堅執自願全英領面起見

英使欲為英領全面子外部亦欲為英領全面子我民則當自己已至權利不當為

英領全面子蓋英領有面子我民無命矣

相持過久於事無益

相持云者彼此各執一端互不相下也今此事彼既不能提出証據是彼無所執矣

無所執更何從而持我又何必與之持耶

應請飭該會先行搬出以期勘明早結

未幾之前何以不能會勘何以不能了結搬後會勘是已先失此第一著之權利矣

且地地為公地亦應召集在地紳耆徵其意見庶可以昭公允而保利益與何得專

任兩國官府以面子感情而談判耶

免致因此無小事有傷兩國感情並即電復為要

小事也大事也凡我民之權利我民皆不可不抵死力爭外部恐因輕小事有傷

感情我民獨不恐因此輕小事致為損失利權之漸耶且此舉在彼毫無証據在

我具有理由在再一味曲從則將來交涉愈形棘手吾恐盡吾民利權將不足以

買外人之好為精矣嗚呼痛哉

四庫編建書目卷之三

子部第三

續錄三卷宋溫陵會稽安胡安國撰延平答問一卷附錄一卷宋朱熹撰近思錄

十四卷宋朱熹撰問辨一卷雜學辨記一卷小學六卷朱熹撰知言

公附錄一卷宋蔡元胡宏撰大學衍義四十二卷讀書記六十二卷心經一卷政經

卷浦城真德秀撰北溪字義二卷宋龍溪陳澧撰性理學書句解二十二卷宋建陽

能佈撰東宮雜覽六卷宋永春陳謙家山圖書一卷朱熹撰性理學解二卷處齋

三書無筴數明晉杜紫撰性理學書覽七十卷明麻沙刻本宋先賢讀書法

卷明莆田訓導七卷經序並重刊之榕園叢書八卷明章浦黃道周撰道南三先

生遺書十一卷明莆田蔡鼎自撰崇正辨三卷宋景安撰實錄一卷附錄一卷

錄一卷宋歐陽修伯羽撰學理備要十二卷明仙游王三寶撰正學編一卷明晉江

陳琛撰性理鈔二卷明晉江楊垣會撰弟經二卷明晉江林允昌撰經史釋義

十二卷林允昌撰讀書備要三卷明晉江黃登撰小學集解六卷黃登撰朱

子為學攷二卷連江章詒靈撰理學疑問四卷章詒靈撰性理折疑十九卷武本蔡洛

撰棉陽學準五卷女學六卷漳浦藍鼎元撰注解莊子卷榕村語錄二十卷安溪

李光地撰











第一六

明治四十二年十一月二十四日

在厦門

外務大臣伯爵小村壽太郎殿

外務大臣伯爵小村壽太郎殿

福建鐵道ニ関シ稟報ノ件

福建鐵道ハ資本欠乏、為メ目下行動

ノ中ニ有之郵傳部奏派清國鐵道勘  
査員ノ勘査ヲ待チ郵傳部ノ指揮ニ從  
ヒ再ビ資金ヲ劃籌シ工事ヲ續行セ

在厦門日本領事館

ントシワ、アル趣ハ已ニ及稟報置候處談  
甚カ査員胡棟朝及蔡傳奎、二名ハ已ニ  
本月十九日着厦門下鐵道公司内ニ駐  
在シ談公司坐辦鄭霽林ト共ニ下調査  
中ニ有之候又總辦陳寶琛ハ此調査ニ  
立會ヲ為ノ当地ニ未ル答ニテ已ニ北京ヲ  
出發セシ旨電報有之由ニ付之レ亦夕遠カ  
ラズ着厦可致本調査ヲ遂行シ談公司前  
途ハ決定モ近キ將來ニ於テ見ラル可シト存  
候

右不取敢及稟報候敬具

白

3

第3518號

第〇門

五七

3519

明治三十二年十一月六日

主務政務局

附屬書類

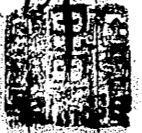
第一課

明治三十二年十月二十五日

在厚門

候奉代既

古林安三郎



外務大臣御對少村壽太郎殿

福建鐵路三關之稟狀一件

各月廿五日、福建鐵路三關之稟狀、其後、閩省、  
前之厚門日報、南嶺鐵路公司上、總裁、  
局意見書、上題、連日、漢口、別紙譯文、  
如、本、論、疑、揚、載、誌、之、水、內、探、之、所、由、ハ、  
在、福、海、鐵、路、三、關、生、辦、陳、院、廣、務、辦、陳、

在清國領事館

室、瑞、錫、老、他、三、帶、在、年、起、年、セ、モ、係、リ、方、  
多、好、新、事、獨、載、ス、ト、考、之、ヲ、瑞、一、ヲ、福、海、  
同、一、咨、議、局、提、生、セ、由、以、テ、考、證、議、々、經、  
ニ、多、ク、也、

要、之、該、書、見、書、ハ、以、外、現、況、シ、一、般、之、訴、一、以、シ、  
接、助、ヲ、ホ、ノ、ト、ス、ニ、モ、セ、リ、以、テ、事、實、ヲ、掩、飾、セ、ル、  
處、向、々、有、之、モ、亦、多、ク、考、考、之、資、質、ハ、可、キ、同、處、ノ、對、  
ニ、付、テ、其、太、意、ヲ、譯、シ、以、テ、教、及、以、送、付、出、品、  
中、查、閱、名、録、以、テ、為、事、中、也、

教、具、

別紙譯文

福建鐵路公司咨議局ニ上ルノ  
意見書

抑、鉄道ハ軍務商務、論ナリ我清  
國主權ニ関連スル所大ダ大ナリ若シ外権  
一度之ニ侵入セバ則チ均ク彼等ノ干渉  
スル所トナリ路權已ニ喪失セバ國權亦  
之ニ後フ前ニ日露ノ戦争アリ近ク安  
奉ノ争アリ康三省ノ事明ニ之ガ急鑑  
タリ彼ノ粵漢鉄道同收、議成リテ  
各省紛々トシテ之ニ做イカテ自辦ニ因  
レトス浙江、安徽前ニ之ヲ唱、江蘇、江

在清國領事館

西貴州及四川、各省後ニ之ヲ唱フ於是乎  
我福建省モ各省ノ風ニ做イ福建鉄道  
公司ノ設立ヲ見ルニ至ル者時ハ僅カニ  
、京官、發起スル所ニシテ敵公同結辦、注  
ニ当レル陳蘭學(宝琛)ハ乃チ先ツ官至數  
萬元ヲ聚メ以テ開辦ノ費ト友ニ復タ糧  
、二親ヲ以テ利子ニ充ツルトシ親ラ南  
洋各地ニ赴キ福建省移民中ヲ株主ヲ  
募集シ一方内地各省モ亦之ニ應ズルモ  
アリ以テ工事ヲ起興スルヲ得タリ厦門對岸  
嵩嶼ヲ据点トシ漳州府城ニ至リテ止ム餘  
籌三百万元トシ素ト本一線ヲ布設シテ  
以テ全省鉄道ノ模範トセトス現ニ工事半



ハナシトシテ資金漸ク乏クテ告グ故ニ外間  
事ヲ妨ケントスル人々徒ニ謠言シ大局為ニ  
勤カントス幸ニ咨議局成立セトスルヤ  
本公司ノ維持救済一ツニ咨議局ニ待ツアラ  
ントス依テ謹テ鉄道ノ我福建者ノ利害ニ  
關係スル所以ノモノヲ述ベ以テ諸君子ノ一考

ヲ煩ツサントス

今福建省ノ地勢ヲ見ルニ本省ハ山海ノ国ニ  
シテ各地相隔絶シ幾ド膏壤ノ隔アリ然カ  
モ内地ハ連山ノ深ク遮掩スル所トナリ河ノ通  
ズルヤリ産物ノ出ヅルノ途ナリ輸入貨物又其  
銷路ヲ杜絶セラニ加フルニ福建ノ瘠者ニ  
一強ント万人ノ認ムル所トナス商務日ニ困

在清國領事館

シ民生日ニ窮ム政界ノ人皆テ之ヲ憐ケ  
ントモ或ハ任ヲ本者ニ得ルヲ好マス或ハ任ヲ本者  
ニ得ルヤ速カニ去ラシテ之レカハ財政困難ニ  
シテ新政ノ籌辦幾下其緒ヲ得ス官人能  
ク其職責ヲ尽ス能ハス

今我福建ノ進歩ヲ因ラント欲セハ必ス先ツ交  
通ノ便ヲ因ラザル可カラス交通便ニシテ工商  
業始メテ益ニ發達ス工商業發達シテ後  
我者ノ生計自ラ豊ナリ鉄道ハ交通ノ利器  
我者ノ困窮ヲ救ント欲セバ宜シク之カ布設  
ヲ因ルベシ

敵公司嘗ヨリ寧ニ我福建省ノ地利ヲ調査  
スルニ其軍事上ニ屬スルモノハ姑ク措イテ論

せ不即々商務ニ関シテ之ヲ云ハシ北方延建郡  
 ノ三府地多五金、鑛アリ富ク地中ニ藏シ米  
 紙、筍、茶、木材、雜穀ノ産アリトモ漢  
 河ノ陝ハ之ヲ轉運スルタダ難シ南方龍巖  
 安溪、潔白ノ炭鑛アリ龍巖ノ貨物ノ如キ  
 陸運スルハ能ハス道ヲ繞リテ汕頭ニ轉運  
 スルノ不便アリ若シ果シテ全省ノ幹枝線全  
 通セバ則々南ハ廣東ニ接シ北ハ浙江省ニ  
 連リ西ハ江西省ト相通ズ往來甚ク便ニシテ  
 商工業ノ發達疑フ能ハス利源開發セラシ  
 実業勃興ス我者運命ノ係ハ所固ヨリ一言  
 ニシテ決ス

査スルニ故公司豫定線路ハ福州ヲ中心トシ

在清國駐日本帝國領事館

上ハ延平ニ至リ下漳州ニ至ル幹線トおし延  
 平ヨリ北ハ浙江省ニ接シ西ハ江西省ニ連ル及漳  
 州ヨリ龍巖州汀州ニ轉スル三枝線アリ又漳  
 州ヨリ石馬及嵩嶼ニ至ルニハ枝線アリ現  
 ニ先ヅ南方ヨリ起工シテ嵩嶼ヨリ漳州ニ至ル  
 ニ着クセリ若シ以上ノ幹枝線ヲ布設シ終  
 トセバ四十萬元ノ資金ヲ要ス之ヲ我々在者ニ於  
 テ募集セシトスルニ固ヨリ難結アルヲ非ズ但  
 カ事体大ニシテ一時ニ決スル能ハス故公司  
 ハ應ニ諸君子ガ鐵道ハ我福建民生國  
 計ノ命脈ノ相関スル所カメテ自弁ヲ固クガ  
 ヲ得ガハラ認メラシムルヲ要求スマシ先ヅ本鉄  
 道布設ヲ分ケテ二期ト方シ以下之ヲ述ベトス

第一時期ハ已ニ成立セル鉄道公司ヲ保全スルニ  
 在リ豫算資金ノ募集ニ在リ査スルニ敝公司  
 已ニ收ル株金及糧塩ノ二税ヲ在セテ約百七  
 十萬元ニ至ル漳厦一線、豫算ハ三百萬元ニシ  
 テ現ニ精算ノ結果三百三十五萬元ニ上リ之ヲ算計  
 ノ豫算ニ比較スルハ之ヲ超過スル一三十五万トス  
 之レ江東橋特別工事費五十萬元ニ上リ  
 原定ノ豫算ヲ超過スル一三十五萬元ニ及ビ  
 シニ基<sup>固</sup>ス要之漳厦一線ハ今ヤ三百三十五  
 元ヲ要スル一トナリ敝公司已ニ收メシ資金百  
 七十九万ニシテ尚ホ百一十萬元ヲ不足シ残存資  
 金ニ最早欠乏ヲ告ゲントス然リトモ幸巳ニ  
 此ニ至ラバ其不足分ニ対シテ如何カ法ヲ設  
 ケ官金ヲ流用スルモ以テ本工事ヲ竣成セント  
 審議中ニ在リ諸君子我福建鉄道ヲ維持  
 セント欲セザレバ則チ已ム若シ之ヲ維持セント欲  
 セバ宜ニ速ニ此間六十五万ノ株金ヲ担當シ之ヲ  
 九府二州ニ分担セシムルハ其募集亦ヲ難カラズ  
 是レ固ヨリ懸リテ諸君子ノ双肩ニ在ルノミ  
 今本鉄道ノ資ニ充ツル糧塩ノ二捐ヲ見ル  
 ニ糧捐銀一兩毎ニ若ハ米一石毎ニ錢二百  
 文ヲ加收シ年ニ約二十万余串(串ハ元ニ当ル)  
 ヲ收ム又塩捐ハ塩一斤毎ニ一文ヲ加收シ年約  
 五万余串ヲ得ルハ已ニ前任崇徳督及現  
 任招總督ヲ各々部ニ奏上シテ許可ヲ得  
 專ラ鉄道及興學保息ノ用ニ充テ鉄道完

在清厦門日本帝國領事館



成スル迄ハ何項ニ支出スルノ論ナリ均シク之ヲ流用  
スル能ハズ開通以後應ニ得可キ純利益ハ尚  
ホ一律均分ニ是ヲ各州縣ノ地方興辦新政  
ニ充ツ可キトニ決定セリ然ルニ糧捐ハ開辦以來  
已ニ二年各屬地方ハ均シク已ニ規定ニ照シテ  
徵收スル此規定ニ照シテ送付シ来ラズ財政  
局ノ報告ニ見エバ各屬糧捐ハ本年春季  
ヲ期限ト爲シ徵收額合計五万余串ニ達スル  
モ敵公司ニ送交セシハ三万余串ニ過ラズシテ二  
万余串ヲ不足ス此外交迭右員地方官ノ未ダ  
收メテ送ラザルモノ尚ホ二万余串アリ已ニ收メテ  
未ダ送ラザルモノ及報告セザルモノハ大抵交迭  
當時ニシテ始メテ明ナル可ク已ニ展轉流用セシ

在清厦門日本帝國領事館

今日能ク之ヲ回收スル能ハズ遂ニ監督ヲ財  
政局ニ任シ委員ヲ派シ督促スルト莫クヤ實  
辦法ナシ畢竟鐵道ヲシテ徒ニ收捐ノ名ヲ受  
ケシメ收捐ノ實ヲ亨クル能カラシム敵公司  
興學スルト已ニ兩年利息ヲ支拂フト已ニ二  
回ニ及ブ之レヲ株金ヨリ支出スルモ以テ信用ヲ  
維持セザル能ハス以テ間ノ消息ハ外間能ク之ヲ  
知ラズシテ鐵道ニ奉進揚セザルヲ以テ糧捐  
ハ宜シク速ニ停止ス可シトノ説ヲ方スモノアリ惟  
モ敵公司カ如何程ノ糧捐ヲ亨ク受シワマルヤヲ  
知ラザルニ似タリ右者ノ商辦鐵道ノ状況ヲ見  
ルニ毎歲收入多キモ百餘万兩少ナキモノ亦十  
數十萬金ヲ下ラズ曾テ未ダ一里ノ道ヲ築カ

ハル皆之ヲ補助シテ后ル、ヲ恐ル、如シ我福  
建省ニ於テハ僅々少額、補助ニ於テ高ハ老屋  
(徴税者向者)、捐金流用ヲ責メズシテ徒ニ工事  
、效少ナキヲ咎ム、不明ノ甚クシキモト云フ可シ  
將夕塩捐ノ一項ニ至リテハ已ニ某署(福州塩法  
道?)、報告ニヨリバ本公司ニ三万三千余兩ヲ  
送交セリト而シテ光緒三十三年正月一日ヨリ開  
辦シ今日ニ至ル迄デ已ニ二年半不足ニ一約  
八千余金ニ及マリ

本年春戶部ヨリ奏上シテ准許ヲ奉ジ各  
省塩價普ホリ四文ヲ加收シ二文ヲ戶部ニ  
送リニ文ヲ以テ留メテ地方新政費ニ充ツル  
トトセリ然リ而シテ鉄道亦地方新政、必

在清厦門日本帝國領事館

要業ト方ス之ガ補助ハ官場亦タ已ニ之ヲ  
批准セル所ナルガ時將ニ二年半ナラントシテ未ダ  
定額ノ送交ヲ受ケズ此亦タ敝公司ニ於ケル有  
名無実ノ一項ナリ今鉄道業ヲ維持セント  
欲セバ則ケテ糧塩二項捐ハ應ニ速ニ財政  
局及塩法道署ニ移牒シテ送交セシメ又右  
屬ヲシテ絲毫モ短欠スル無カラシメ以テ名  
實相一致シ京奏ニ照シテ鉄道ノ資員ニ供  
セシム可シ蓋シ此糧塩兩捐ハ國家ガ鉄道  
公司ヲ補助スルノ費ト右ス而シテ現今中外  
若國ニ於テ凡ソ私設會社ニシテ苟モ國家  
主權或ハ地方生計ニ關係アルモノニ付シテハ  
政府必ズ之ヲ補助ス補助費或ハ補助金

ト知スル即ケ之レナリ今糧塩兩捐ハ福建鉄道ヲ補助スル所ノモノニシテ敝公司ニ關係スル甚ダ大ナリ若シ已成ノ局ヲ破壊セバ我福建鉄道ヲシテ半途ニ坐廢セシムルニ至ル可ク諸君子ハ國家ヲ代表スル所ニシテ應ニ負フハキ、責任ナリ

要之敝公司收入額ハ株金及官金ハ本年五月迄ニ合計百三十三万二千兩之、換算約一百七十五万トス而シテ支出額ヲ見ルニ本年五月迄ヲニ於テ約一百十七万兩即一百四十余万兩ニ達シ而者差引残額約十九万二千兩ニ過ヤズ然アモ此ノ残額ニ其後ノ工事費及材料購ハノ為メ九月末ニハ持ニ尽キ

在清厦門日本帝國領事館

チ一文ノ残餘ナカラントス  
茲ニ更ニ工事ノ成績ニ就キ述マレトス已ニ完全ニ布設シテ車輛、往來ニ堪ユルモノ嵩嶼ヨリ海澱ニ至ル十三里(里、清里ニシテ以下ニ左シ)トス而シテ海澱ヨリ江東橋辺ニ至ル工已ニ九分ヲ完成シ其他ヲ合セラユ工ノ完成セシモノ計四十三里ニ及ブ尚ホ工程處、豫養ニヨリニ已ニ支払ラ了シタル工事費以外ニ三十七万兩ヲ以テ明年春季ヲ期シテ嵩嶼ヨリ江東橋ニ至ル一律車輛ヲ通スルヲ得江東橋(鉄橋)工事ニ五十万兩ヲ要シ江東橋以上漳州ニ至ル迄テニ六頃ヲ六十万兩ヲ要ス可ク雜用ヲ十三万兩ト見様リ今此ノ費用百六十五万兩

一、概算相場、異同  
 二、五七千両  
 三、株利息  
 三、五七千両  
 四、総司内送料雑費  
 十、五七千両  
 五、測量費(多即個人ノ屋ノ測量見)  
 七、千両  
 六、公用家屋建築費(福少旅)  
 二、千八百両  
 七、台上一(厦内ニ於テ)  
 二、千七百両  
 八、カ蒸洗解  
 二、千六百両  
 九、学堂経費  
 二、千二百両  
 以上銀二十三、千六百四十両而即約三十三、千五元ニ達シ  
 之ヲ前項三、千三百元ヲ除去スル時、二、千九百  
 七十元ニシテ之ニ純粋ノ工率費トス之ヲ九、十元  
 ニ配分スル時、毎里平均約三、千三百元ニ該  
 考ス更ニ江東橋、特別工率費五、千五百元

一、副出セカハ可カラス之ニ已ニ消費セシ百七  
 十、五元ヲ加フル時、三百三十、千五元ニ及ブ之シ漳  
 厦一線所要実額トス夫レ九十里ノ鉄道  
 ニ対シ三百三十、千五元ヲ要ス是レ毎里平均三、千  
 七十元ヲ要ス計算ナリ然ルニ敵公司設立以  
 来其支出項目中公司ニ屬スルモノアリ工率  
 ニ屬スルモノアリ例ハ地僕、材料、賃金、機械、  
 車輛、枕木、鉄軌其他工率部用人送料  
 等ハ工率費ニ屬シ総司各部令、支出  
 銀相場、及習相場、株利息、学堂其他  
 一切雜費ハ工率費ニ屬セカハモ、ニシテ凡ソ左  
 左記ノ金額ニ達ス

在浦厦南東水帝國領事館

ヲ割除スル時ハ毎里平均三五元ニ及ハズ論  
者或ハ曰ク敝公司已ニ百七十五元ヲ消費  
シテ完成セルモノ十三里ニ過ヤズト之ヲ察セ  
カシ、其少シキモ、本鉄道ノ事ハ新寧  
蘇浙ノ如ク速カナラズト居之ヲ粵漢鉄  
道ガ未ダ起工セザル前ニ已ニ三百元ヲ消  
費セシニ比較スル時ハ其成効固マ已ニ昭  
然タリ蓋シ各省鉄道歳ニ規定ノ官金  
アリ以テ補助トオスニ定ムルニ福建鉄道  
ハ款工ノ初メ僅カニ七五元ノ資有リシ、ミ  
南洋出稼民ノ陸續持ニアルモノアリ以テ事  
大ニ举ルヲ得タリ近頃敝公司辦理ノ竭蹶  
ハ之ヲ他省ノ甚少シキ比スレバ甚ダ諒トス可  
キモノアリ敝公司方々自ラ辦復スルモノ非ズ  
只ダ福建鉄道ハ其虞係スル所重大ニシテ  
之ノ存亡絶續ハ秋ニ際シテハカメテ維持担  
任ニカメザル能ハズ則テ現在ノ辦法ヲ維持  
セント欲スルヲ知ラカシ、將來ノ推廣知  
可カラズ已成ノ基礎ハ復タ廢棄ニ任ズ  
今般諮議局成立ノ時ニ際シテ遂ニ我福建  
鉄道ヲ廢棄ニ考セザル施ラテ一矢ヲ天下ニ  
貽スニ至ラザルヤラ思ハ

在清厦門日本帝國領事館

如シ  
一 福州より漳州ニ達シ漳厦線ニ連接スル  
第ニ期ハ將來全省各幹枝線ヲ如何ナル  
辦法ニヨリ推廣セントスルヤニ在リ凡ソ尤ノ

一線、福沙ヲ延平ニ接スル一線、延平ヨリ  
邵武ニ接スル一線、西建寧ニ接スル一線、  
漳沙ヲ龍巖ニ接スル一線、以上三線、  
上算四千萬元  
二之、四千万元、資本金ハ十年ニ分ケ、毎年  
四百万元ヲ割出ス

三、割出ノ方法

右三項ニ対シテ、如何ナル辦法ヤリヤ或ハ右  
砂縣ヲ分別担認スルヤ或ハ地方大官  
ヨリ差請ヒテ者債ヲ興ラズカ或ハ郵傳部  
ニ呈請シテ者福建江西二者ヲ朕右ニシテ  
一幹線トシ督辦大員ヲ派遣シテ求メ資金融  
出ハ其支出ヲ郵傳部ニ仰ガカセ等

均シ敷公司現辦、津厦鉄道ノ範圍内  
ニ在ラスト屬スル我福建全省利益、固ク  
ハ所應ニ負向諸君子別ニ詳細章程ヲ  
議ス可キモノニシテ故公司今日敢テ未議ニ卷  
ス所ニ非ヤハナリ

私設福建鉄路有限公司謹呈



南洋鐵道

附 第一課

公第三五號 受第 6826 號

明治四十三年三月十五日

在福州

領事 高州 助



外務大臣伯爵小村壽太郎殿

書村表

乙

第 3 門

福建鐵道 関スル件

福建鐵道ノ件ニ付テ客年十月十九日付公オ一五号シテ  
岩村車務代理ヲ友邦報云ハ此等事之ハ初め其後漢  
鉄路公司ハ紛擾已ニカシテ陳寶琛氏ニ月間請  
暇ノ上厦門ニ赴キ二月上旬歸京ノ途當地一週間程  
滞在波州府ハ舊日同氏ヲ初メ多クハ友邦報ニ今後

四十二年四月十一日記録一部受

在清國福州日本領事館

何カカ輕理付テハ右相與ルハ予ニテ今同場ハ高業研  
究所發行ノ高業雜誌ニ同氏ノ意見ヲ掲載有之  
右清曆客年未夏山ノ於ケル株主會議ニ提出セシモノ  
如ク同雜誌ノ將來ニハ規知スニキトハ存其概ヲ要  
出シ茲ニ及御送付付間請査閱相成度右及友邦報  
告候敬具



福建鑛道ノ関ル陳宝琛ノ意見書

宝琛、京ニ職ニ奉シ自ラ鑛道事務ヲ兼管スルニト欲ス株主諸君付託ノ重キニ負キ深ク遺憾トス所ナルカ目下鑛道興敗ノ関スル一竹ヲ念ヒニ今月ノ事務暇章ニ許可ヲ得タルヲ以テ郵傳部ニ商議シ通銀行ヨリ借款ノコトヲ議定シ廈門ニ未リ工程々命計ヲ検査シ茲ニ諸君ト共ニ今後ノ策ヲ定メテトス抑モ漳州厦門間ノ宣統三年ニ落成ノ豫定ニシテ工東橋ノ工事ハ十八個月ヲ要スルヲ以テ公司ノ内容ヲ整理シ株金ヲ募集スルニ非サレバ舉辦スル能ハサルナリ今ヤ我カ請暇期特ニ満タレトシ新總理陳君ハ舊東公務ノ為メニ郵傳部局ニ止モリ難ク楊協理ハ外國ニ在リ林協理ハ家事ノ都合アリ黃協理ハ近々居末ニ赴ク等ノ事情見カ故

一、經費

二車日高議ノ上更ニ章程ヲ定メ厦局ノ鄭坐辦ハ葉協理ヲ補助シ一カヲ監督シ前ノ駐局代表董事楊博九氏ヲ公司監理員トシ公司一切ノ會計ヲ検査スルコトセリ本公司ノ計畫事項左ノ如シ  
鑛路公司ノ収入タル金額ハ株主及糧捐、益捐、預金利子、地租、雜款ヲ合シ宣統元年八月ニテ一百八十餘萬元ニシテ其金額ハ已ニ之ヲ使用シテ殘餘ナリ已ニ着手シタル厦門對岸嵩山嶼ヨリ江東橋ニ至ル五十六里(清里)ノ工費更ニ三十七萬元總公司經費三萬元約四十五萬元要ス江東橋加木橋費及漳州ニ達スルハ又ノ線路敷設費百十萬元經費十萬元總計一百六十萬元ヲ以テ全餘ヲ元成スレシ今其經費調達方ヲ左ノ三期ニハカツ

第一期 着手セル工程完成ノ為メ交通銀行ヨリ五十萬元ヲ借入シテ工費及利息ヲ支拂ヒ残餘數萬元ハ客車及汽船購入費ニ充ツ

第二期 架橋及次区ノ工事費ニ充ツル為メ南洋各島及厦門等ヨリ先ツ株金三十萬元ヲ募集シ明年三月(即我明治四十三年三月)公司ニ掛ハシム

第三期 明年六月(即我明治四十三年七月)嵩嶼ヨリ江東橋ニ至ル五十六里開通ノ豫定ナルヲ以テ七月第四回株主總會ヲ開キ各株主ヨリ株金百三四十萬元ヲ掛シ其金額ヲ以テ江東橋及ヒ第三区工費及交通銀行借款返還ノ用ニ充ツ

一、公司使用人員ヲ詢大ニ工程師一人、圖算長一人、圖算

在清國福州日本領事館

掛四人、書記一人、會計一人、各項事務員六人、医員一人、技師二人、管工二人、監工七人、掃地掛二人、日補員一人、差遣一人、機械師二人、工長一人、各工場事務員二人、總計三十人以上トシ毎月俸給千五百餘元ヲ節減セリ

二、目下嵩嶼ヨリ江東橋ニテ五十六里ノ工程ニ着手セルカ明筆三月(即本年四月)海澄ヨリ石尾マテ開通シ六月(即陽曆七月)全部開通ノ豫定ナリ

三、工事受員ノ諸弊ヲ整理ス(細目略ス)

三、公司各部ノ整理  
一、總公司ハ坐辦一人、翻譯以下事務員四人、經理處總辦一人以下事務員三人、庶務處三人、稽核處三人、採辦處二人、役員ヲ置キ其他ハ全部裁撤シ毎

月俸給二百餘元ヲ削減セリ

二、材料買入ニ就テ従来ノ諸弊ニ鑑ミ今回公同ヨリ

葉崇華氏ヲ擧ケ主任トナシ坐辦ト會同シ取扱ハシム

重要物件ハ已ニ買入リ了シタルヲ以テ今後ハ適者ナラ

店ト契約シ臨時購置スヘク「セメント」如キ香港ニ於テ

價廉ナルモノヲ擇フヘク「区」起工ニ際シテ錢軌ハ漢陽

錢廠ニ注文スヘク枕木ハ各商ノ情況ヲ調査シ便宜

賢擇スヘシ

三、従来駁船ノ揚卸既ル弊近之損失少カラサルヲ以テ

取扱方ヲ改良シ適テ公同ニ於テ駁船三四艘ヲ造リ

自ラ装運ヲ行フス

本公司目下計畫ハ右ノ如クシテ漳厦ノ線ハ原来三百萬元豫

定ナリシモ江東橋ノ工事困難ナルカ為メ二十萬元ヲ増加シ全路

三年ニテ竣成スヘキ旨ナリシニ意見紛歧シテ遂ニ

其他ノ諸費三百四十萬元ヲ要ス従来又ハ官株民株利息地租雜

収入合計百八十餘萬元ヲ降キ昔百五十萬元内外ノ不足ヲ生セリ交

通銀行借款ハ已ニ着手セル工事ヲ竣成セシムル為メニ江東

橋架設費及以テ三十四里ノ工程ニ對シテ的確ノ資金ヲ得

サルカラス而シテ明年三月即我邦手三四月三三十三万ノ現金ヲ有

セザルニ至リテハ如何スルヤ同下ニ於テハ着手セル五十餘里ノ工

程ヲ速ニ完成スルヲ圖シ江東橋及以テノ工程ハ資金ノ出處

確定ナルニ非サレバ決定スルニトセハス諸君福建錢道ノ

成敗ヲ顧念シ陸債巨額ヲ借入セザルニ全カク注

カレニシテ切望ノ至リニ勝ヘス

南洋  
南洋  
南洋

五月十九日接受 臺灣政務局

公第一二八號

附屬書類添附

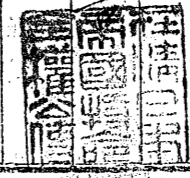
10840 號

明治四十三年五月十日

第一課 東 查

在清國

特命全權公使 伊集院彦土



外務大臣 伯爵 小村 壽太郎 殿

福建省 諸鐵道、現状ニ關スル件

本件ニ關シ、郵傳部ニ於テ派員調査ノ結果、  
上奏報告、全文五月四日、政治官報ニ掲載有  
之矣。付反譯ノ上別紙供高覽矣。敬具。

官封  
張自村了  
第3門

時報了

四十二年六月十五日記錄一部受

在清國日本公使館

Table with vertical columns, mostly empty space for document content.

福建諸鐵道、現況ニツキ郵傳部

上奏報告文

本部ハ光緒三十四年五月二十七日付ヲ以テ近來各省ニ於ケル官辦鐵道ニ比シ能ク豫期ノ如ク竣工シ成效顯著ナルモ獨リ紳商ノ株式組織ニ係ルモノハ會社創立以來多年ナルニ係ハラヌ多クハ事業ノ進捗ヲ見ズ依テ郵傳部ニ命シ各鐵道ノ工事狀況ヲ確實ニ調査セシメ適當ノ方法ヲ擬シ期限ヲ嚴定シ若シ募集株金ノ不足額大ナルモノ或ハ各異見ヲ持シ互ニ責任ヲ避ケテ工事ヲ延延スルモノアル時ハ其ノ當事者等ヲ免黜スベシ云々ノ上諭ヲ奉シタルニヨリ當時直チニ鐵道

在清國日本公使館

工事及費目調査標準ヲ擬定シ前後各吏員ヲ各處ニ分遣調査セシメ調査既了ノ狀況ニ付テハ夫々奏陳スヘキ旨具奏シ置ケリ茲ニ福建省<sup>漳廈</sup>潮汕、新甯、惠潮、四鐵道狀況調査、為メ出張セシメタル本部鐵道技師胡棟朝、員外郎光裕、主事蔡傳奎、許沐鏞等ノ報告ニ據ルニ福建全省ノ鐵路ハ豫定全長二千餘里(清里以下比當同)ニシテ其内第一ニ着手シタルモノハ

一漳廈鐵道ニシテ全長九十里、軌道ノ敷設ヲ了リ開通セシ處十餘里、其餘目下軌道布設中又、橋梁架設中ニシテ線路平直、工事堅固、機械工場、倉庫、プラット

ホー山等ノ設備亦遺憾ナシ

資本金ハ株金糧捐塩捐及預金利子等合計銀百三十七萬兩餘支出ハ材料費土工費株金利子等合計百三十四萬四千兩餘

差引現存銀二萬六千兩餘ナハ全線ノ布設ヲ了スル迄ニ尚ホ資金調達ノ必要アリ

二潮汕鉄道ハ汕頭ヨリ潮州府城ニ至ルモノニシテ全長八十五里光緒三十三年工ヲ竣リ其汕頭停車場ノ如キ略ホ整頓ニ近ク車輛亦頗ル適良ナリ惟タ汽関車ハ頗ル舊式ニ屬シ建築工事モ適當ナラザル処アリ全線布設

在清國日本公使館

ニ對スル募集済株金銀三百貳萬四千餘元

總支出銀叁百拾貳萬三千餘元  
收益ハ開通以來年々ノ收入金中ヨリ軌道修繕費ヲ除キタルモノニ對スル純益僅カニ一分内外ニ該當ス

三新甯鐵道ハ新甯城ヨリ公益埠ニ達スルモノニシテ全長百二十二里宣統元年工ヲ竣リ木軌工事ハ尚ホ合式ナルモ惟タ全線七百十粗沙ヲ用カテ軌道ヲ築築シ且ツ線路ノ彎曲甚シク且ツ曲線短促ニ過クハ嫌アリハ改良ヲ要スルハ

募集済株金銀貳百七拾四萬元餘



總支出ハ貳百五拾壹萬元餘ナレハ尚現  
 存金、銀貳拾貳萬元餘アリ  
 收益ハ開通後年々ノ收入金中ヨリ軌道  
 ノ修繕費ヲ除キタルモノニ對スル純益ニ三分  
 ニ該當ス  
 四惠潮鐵道ハ發起人元太僕寺卿張振勳ノ面  
 述ニ據レハ株主ノ解散ニヨリ事中止ニ歸  
 シタレハ布設命令取消ノ件本部ニ代稟  
 シ請フ云々トアリ  
 查スルニ福建鐵道中漳廈線ハ工事困難ニシテ  
 費用亦大ナルヲ以テ敷設費ノ不足ヲ訴フルニ依リ同  
 會社ヨリ本部ニ請願シ依リ資金ヲ調達シ一面  
 株金ヲ追募シテ完成シ企圖スルトシ潮汕線  
 在清國日本公使館  
 最先ニ竣工シタルモ線路太ク短ク收利ノ見込  
 タサルヲ以テ潮州府城ヨリ意漠ニ達スル延長工事  
 ノ布設ヲ訓令シ且ツ既成工事中不都合ノ個處  
 ハ續々改良ヲ施シ以テ完成ヲ期セシムルトシ又新  
 線線ニ剩餘金貳拾餘萬元アルハ是亦株金ヲ  
 追募シ更ニ線路ヲ公益埠ヨリ新會城地方ニ延  
 長シ以テ交通ヲ便シ且ツ收益ヲ増大セシムル  
 採訓令  
 シ而シテ惠潮線ハ前ニ張振勳ヨリ資金調達ノ  
 上商辦トナスコトニ願ヒ出テアルモ派遣委員等意見  
 見ニ據レハ資金募集ノ思ハシカラサルノミナラス  
 交通ノ幹線ニモアラサルヲ以テ之カ布設命令ヲ取  
 消スコトニシタシトアルニヨリ本部ニ於テモ其情形ヲ体  
 察シ該線路工事ハ之ヲ中止セシムルトセントス云々



明治四十三年五月三十日接受

書政務局

第一課

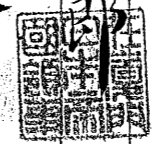
附屬書類添付

公第八六號

昭和十一年五月二十日

明治四十三年五月二十日  
在廈門

領事 菊池義郎



外務大臣伯爵小村壽太郎殿

漳廈鐵道開通狀況報告、件

廈門、對岸嵩巽ヲ起點トセル漳

廈鐵道ハ本月九日ヲ以テ其ノ一部

ノ開通ヲ試シ候條漳廈鐵道開

通狀況別紙一通差進候間御查

閱相成度此段申進候 敬具

在書信本帝國領事館

通商  
第四拾  
九號  
基年  
濟幣



外務省

五月二十日

イナ

漳厦鉄道開通状況

起工以來已三ヶ年ノ歲月ヲ閱シ  
 二百萬元内外ノ資金ヲ費シテ世  
 人注目ノ中心トナリタル福建鉄道ノ  
 一分岐線漳厦鉄道ハ今日迄僅ニ  
 全線ノ四分ノ一許ヲ鉄軌敷設ヲ  
 了シタルニ過キサルニ越月九日即チ  
 陰曆四月一日ヲトシテ既成ノ線路  
 即チ厦門ノ対岸嵩巽ヲ海滄及  
 山下廳ヲ經テ岐陽附近ニ到ル約二  
 十清里間ニ毎日午前及午後各一  
 回客車ノ揮轉ヲ開始セリ客車ハ  
 四臺連結ニシテ總テ從來該線路  
 工事ニ使用シツトアリタル無蓋ホギ式  
 ノ貨車ノ当地ニ於テ改造ヲ加シ  
 一臺ハ通常ノ箱形客車トナシ他ノ三  
 臺ハ四本柱ニスツクノ屋根ヲ張りタル  
 多シ其粗造單客車ノ名稱  
 ヲ有スルニ過キス  
 汽罐車ハ二台ヲ有シ交互ニ運轉ス  
 停車場ハ嵩巽及海滄ノ二所ニシテ  
 嵩巽ハ其起點ナルカ故力停車場及  
 附属建築物等外觀ニ稍見ルマキ  
 毛アレ氏海滄ハ其規模甚小ナリ  
 乘客切符販賣所ハ嵩巽海滄及  
 在厦門福建鐵路公司ノ三個所ニシテ

在清厦門日本帝國領事館

其貨銀廈門ヲ終点ナル下廳及ヒ  
 岐陽附近迄銀十八仙ナリ  
 廈門ニ於ケル鐵路公司前ヨリ嵩巖迄  
 ハ會社ハ小蒸汽船一隻ヲ以テ列車  
 發着毎々乗客ノ運送ヲナシツマアレド  
 廈門及ヒ嵩巖共ニ未ダ棧橋ノ設備  
 ナキ橋故ニ小蒸船ニ往復スルモノハ必ス  
 舢板ニ頼ラザルベカラス又嵩巖停車場ハ  
 海岸ヲ隔ツル距離ニアル故ニ  
 乗客ハ此間ヲ歩セサルベカラサル等不  
 便少カラス  
 廈門ヨリスル汽船約三十分ヲ消シテ  
 嵩巖ニ到ル得、又嵩巖停車場ヨリ  
 在清廈門皇帝國領事館  
 岐陽迄ハ約五十分ヲ要スルカ故ニ合計  
 終点迄ハ約一時間二十分ヲ要スベシ  
 目下往復ノ客數ハ毎回十數名乃至  
 二十名ニ過ラズ日合計九十名ヲ越  
 サルハ貨物ノ運搬ハ隨時商議シテ  
 之ヲ引受クルトナシ未ダ貨物賃銀  
 率等ノ規定公布ナラズ又事實上貨  
 物ノ運搬ニツキ同線ヲ利用セントスル  
 事ナラズ  
 開通當日ハ廈門及ヒ嵩巖、於テ何等  
 盛大ナル開通式ヲ開催セズ偶々同鉄  
 道ニ趣味ヲ有スル少數ノ人士嵩巖ニ  
 集コレルニ満キスレテ嵩巖停車場及ヒ

幸七

從テ

開通線路附近小行人數アルモ是レ開通當  
ノ光景トシテ小中階寂然タル傾向ナリ

開通線路沿村中稍小都會ヲ為セルハ

海倉ナレバ<sup>海門</sup>物資集散ノ中心地ニ

アラズ殊<sup>海門</sup>海倉迄ハ毎日小蒸汽船及

民船ノ屢門ト<sup>海門</sup>間ヲ往復スルアリ云<sup>貨物</sup>

運搬ハ勿論往來ノ人々其賃錢ノ鐵道運

賃錢ニ比シテ<sup>甚</sup>廉ナルガ<sup>貨物</sup>運搬旅客

依然民船及小汽船ノ便ニ<sup>運搬</sup>目

下<sup>鐵道</sup>鐵道ノ物珍シキト其速力ノ勝レルト

モ<sup>一部</sup>一部少数ノモノト<sup>鐵道</sup>鐵道ニ<sup>過</sup>過キ不

其列車運轉ノ為メ特ニ使用セ<sup>各</sup>各後

員ノ俸給スラ之カ收支相<sup>否</sup>否ヤハ

少<sup>疑問</sup>疑問ニ屬ス<sup>現</sup>現<sup>開通</sup>開通

同會社ノ利益アル<sup>等</sup>等<sup>白</sup>白

事實<sup>手ト</sup>手ト<sup>滑</sup>滑<sup>カラス</sup>カラス

同會社カ此<sup>等</sup>等<sup>不</sup>不<sup>利</sup>利<sup>益</sup>益<sup>ヲ</sup>ヲ<sup>默</sup>默<sup>認</sup>認<sup>シ</sup>シ<sup>ツ</sup>ツ<sup>ト</sup>ト<sup>強</sup>強<sup>テ</sup>テ<sup>不</sup>不

完全ナル短距離ノ開通ヲ試ミタルハ蓋シ

在清廈門皇帝國領事館

運搬旅客ノ未往

本年七月中

開催アルベキ同會社第四次定期株主總會ニ於ケル株金拂込残額ノ拂込督促及ビ其他諸方面ヲ、借債ヲ増スベキ際ニ便センカ為メナルベシト云フ、

昨年中在北京交通銀行ヲ借入タル銀五十萬元ハ已ニ大半消費シ了リタレ氏尚其残額ヲ以テ嵩巽ヲ去ル五十六清里ナル江東橋沿ノ工事費ニ充テ得ル由ナルヲ以テ同橋沿ノ工事ハ或ハ明年三月頃ニ完成セラルベシト云フ江東

橋ノ架橋工事ハ請員高五十萬元ノ特別工事トシテ起工ヲ十八ヶ月以内ニ竣工ノ預定ナレド尙何人モ之ヲ請員

ハサル模様ナリ從テ江東橋架設完成ノ時

季及ビ進ニテ漳州迄鉄道開通ノ時

季ハ一ニ資金募集ノ成否如何ニ由リテ決セラルベキ問題ニシテ到底現在之ヲ明確ニ豫想シ難キ狀況ナリ今ニ於テ

字

16

寫

明治二十一年六月二十一日接文

云信文一七〇號

外務省  
一七〇號

明治二十一年六月一日

五手電

總理代理新地局一申

外務省に御書少為奉答申取

浙江鐵道公司總理浦島清一

勸業部に御書之件

先年招致可敷、豫知政府ノ奔走之ヲ

外務省

ありしヲ極力中央政府ノ借款ニ支對  
 之結果之ヲ名聲ヲヲ得たり浙江鐵  
 道公司總理浦島清一ノ為ニ浙江福  
 建、廣東ノ各地方ニ大規模鐵道ニ敷  
 設計並ニ熱心ニ之を月中、陸軍ニ奉  
 リ請地ニ于以日清條約ニ據上ニ  
 おりて之ニ大規模鐵道ニ敷ノ必要ヲ  
 演説し且其ノ事ノ駐心ヲ拮据ニ其  
 々白ニあり以任再ニ其操ヲ失又し他  
 々ノ事  
 清ニ其ノ事ニ名譽及東ニ其ノ事  
 西海輸ヲ

外務省



滑りこむはくしとテ方々陸東人ノ有月日ノ海  
動するに由り而時陸東及中地ノ海字新  
字ニ傳せらるる事ナレバ人ニ生得一家  
日と旬(中地ニ来リ陸東ニあるト同ころ  
大業命ヲ傳フし可成る數ノ様主ヲ以  
らるゝ故らと流激ナル海流ヲるしテ人ハ  
新激セントセしニ生得命名ノ事南御  
ノ事ヲナキコト、テ大規模ノ集命ヲ傳フ  
コトヲ以テ極メテ少數ナル流者ヲ取メテ  
陸東字のノとノヲ傳フコトニ固極メテ不

外務省

結果ころり中地を海流を以てらるしとテ  
汕頭向ケルにあらん由あらうと汕頭福安  
府つお海流至る處の標ノ事取テ試み  
ルナラント被命され  
陸東及中地ニある海ノ名新ニ中地と  
陸東とを以てしテ波し陸東標を中地と  
陸東ヲ以てしテ波し陸東標を中地と  
之を以て然之ヲ海流とせん由然し  
此ノ事ヲ以て陸東人ト稱メテ陸東と  
之ヲ以て海流と稱メテ海流とせん由

是の二集ヲ抄じたる由書其波ハ陸東及  
 各地ニあり不冊ノ如キ東ナリ陸東ナリ計  
 重宝洲録後ニ司船録種ヲ言ナリ  
 二冊子ヲ令解シテ書ニシテ流布ヲ以  
 布シタル由ナリ方本ノ四録後ニ司船録  
 種ヲ言ナリ方本ノ四録後ニ司船録種  
 式ニ系極ナル方本ノ四録後ニ司船録種  
 ノハ東豆白文等ニテ友行シタル如キ船録  
 海軍書中カ川谷保長ノ海軍ヨリ陸東  
 ニ至ル海軍書及上ノ諸書ニ言及シ得御  
 ナル程先年書リ用ヒタル時ニ日本ノ  
 陸軍ヨリ海軍ニシテ見出シタル如  
 然し編者ノ如キ海軍書中ニ編中  
 才言及ラレシ種々異ノ大勢ニ通リ  
 陸軍ト名セ取テノ如キ海軍書中ニ  
 之ヨリ海軍ニシテ言及ラレタル如キ  
 及計リ難キ如キ如キ如キ如キ如キ  
 陸軍ト名セ取テノ如キ海軍書中ニ  
 ノ如キ之ヨリ見テノ如キ海軍書中ニ  
 二怪ハ之ヨリ見テノ如キ海軍書中ニ

外務省

清の字をトシテ於直清トシテ又其官ノ  
至工ノ家トシテ其地方ニおケル能ノ所  
望ノ所ニ海ヲ難キニテ其ノ隠テ能ノ  
言ハテ其ノ事ニ至ルニ其ノ由ニ  
至ルニ

(昭原不丹水略)

(系書ハ海抜用録ニ寄録ニ至ル)

外務省